

# やまびこ計画

第3期奥多摩町地域福祉活動計画

心と心 笑顔と笑顔をつなぐまち 奥多摩



平成28年3月

奥多摩町社会福祉協議会

## はじめに

近年の社会情勢は、人口減少や少子高齢化、経済不況など急激に変化しており、奥多摩町においても少子高齢化が急速に進み、高齢者の割合が50%に迫る勢いとなりつつあり、今後、地域住民からの福祉ニーズはますます多様化・複雑化されることが考えられます。

このような中、当法人では、平成17年3月に策定した第2期の地域福祉活動計画「やまびこ計画 やすらぎ・ふれあい・おもいやりのあるまち 奥多摩」の評価を踏まえ、町内の様々な分野の方々からなる策定委員会による検討の結果、今後10年の地域福祉の指針となる第3期の地域福祉活動計画を策定することができました。

この計画では、町の策定する第5期長期総合計画を踏まえ、地域保健福祉計画と連携し、「どこに住んでいても福祉の手が行きとどいたまち」「住民一人ひとりがボランティア精神で活動するまち」「住民と行政が一体となってつくる福祉のまち」を基本理念に定め、「福祉のネットワークづくり」「安心できる日常生活の支援」「ボランティア活動の推進」を基本目標に、住民主体の福祉のまちづくりを実践するため、行政や関係機関、団体、そして住民皆様と協働し、地域福祉を展開してまいりたいと考えています。

終わりに、計画策定に際し、御多忙にもかかわらず、熱心にご検討をいただいた策定委員の皆様及び、アンケート調査やヒアリングで貴重なご意見をお寄せいただいた住民の皆様には、深く感謝を申し上げます。

また、計画実施にあたっては、さらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会

会長 小澤 春義

## 第3期奥多摩町地域福祉活動計画の 策定にあたって

日本では、出生率の低下が進み人口が減少傾向となり、少子高齢化が急速に進んでおります。

奥多摩町ではさらに深刻な状況となっており、地域住民からの福祉ニーズは多様化すると考えられ、それに対応する地域福祉の展開が必要となります。

地域福祉活動計画は、住民主体の福祉のまちづくりを実施するための活動目標を示すものとなっており、この度、第3期の地域福祉活動計画を策定することとなりました。

平成17年に策定した第2期の地域福祉活動計画から10年が経過し、新たに、町が平成27年に策定した「第5期長期総合計画」や「地域保健福祉計画」と足並みをそろえ協働する地域福祉活動計画となるよう検討いたしました。

計画策定においては、地域の様々な状況を「みんなで考え、つながり、解決する地域づくり」をめざし「地域参加型のまちづくり」「共に生きるまちづくり」「自立型の福祉」「福祉文化の創造」を基本視点に置き、策定委員会において、議論を重ねてまいりました。

この計画では、「心と心 笑顔と笑顔をつなぐまち 奥多摩」を目指す将来像とし、住民参加型の助け合い、支え合いをコーディネートするための計画書と位置づけ、住民参加型の地域福祉を実現するための具体的な取り組みを例示いたしました。

様々な課題や問題等について、精力的に議論を重ねていただきました委員の皆様、各調査にご協力をいただきました皆様に、この場をおかりしてお礼を申し上げます。

平成28年3月

奥多摩町地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 原島 榮治

# 目 次

I. 地域福祉とは .....	6
1. 地域福祉とは .....	6
2. 地域福祉活動計画の位置づけ .....	7
3. 計画期間.....	8
4. 計画の推進 .....	8
5. 計画に盛り込んだ視点 .....	9
II. 地域福祉の将来像 .....	11
1. 地域福祉の将来像とは .....	11
2. 基本理念.....	11
3. 基本目標.....	12



Ⅲ. 地域福祉の展開 .....	13
1. 地域福祉活動の実施計画の体系 .....	13
2. 地域福祉活動の具体的取組み .....	14
福祉のネットワークづくり .....	14
(1) 社会参加・交流の場づくり .....	14
(2) 企業・民間団体等との連携 .....	17
安心できる日常生活の支援 .....	20
(1) 住民による助け合いサービス .....	20
(2) 社会福祉協議会の取組み .....	25
ボランティア活動の推進 .....	30
(1) ボランティア個人・団体への支援活動 .....	30
(2) ボランティア活動のコーディネート .....	32
【資料編】 .....	34
1. 計画策定の経過 .....	36
2. 地域住民アンケート調査結果の概要 .....	37
3. 関係団体ヒアリング調査結果概要 .....	51
4. その他 .....	57



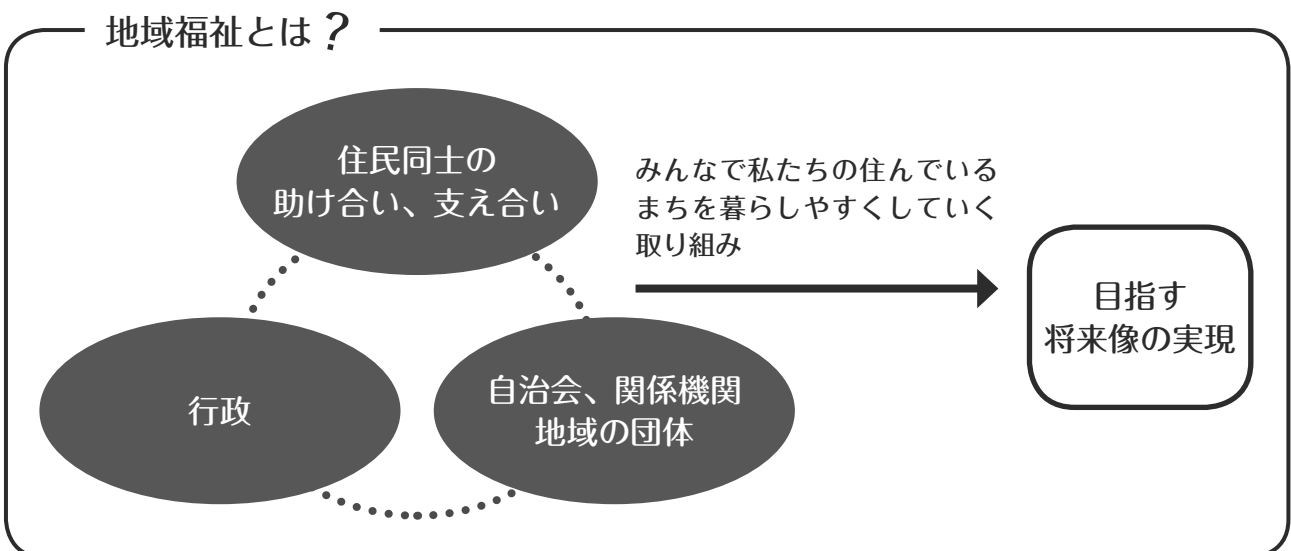
## 1. 地域福祉とは

住民一人ひとりがその地域でいきいきと自立した生活を送ることができるよう、地域の住民や自治会、行政、関係機関等が力を合わせて、みんなで私たちの住んでいるまちを暮らしやすくする取り組みのことです。

私たちの身の回りには、高齢で介護を必要とする方や障害のある方、ひとり暮らしの高齢者、子育てや家族の介護で悩む方、また交通の不便な地域で暮らす方など、さまざまな悩みや不安を抱えており、何らかの支援を必要としています。

行政機関は、このような問題を抱えている方を支援するために、福祉の充実に努めていますが、問題が多岐にわたっていたり、一人ひとりが抱える問題が違っていたりして、全てを行政が主導で行う福祉は困難な状況です。

そこで、必要になるのは、同じ地域に暮らす住民同士が助け合い、支え合いながら、みんなで力を合わせて取り組んでいく『地域福祉』なのです。



### 【地域福祉活動計画とは？】

地域福祉活動計画とは、社会福祉法において地域福祉を推進する中心的な団体として位置づけられた社会福祉協議会が呼びかけて、住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する者が相互協力して策定する地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画です。

※全国社会福祉協議会の定義（平成 15 年）

## 2. 地域福祉活動計画の位置づけ

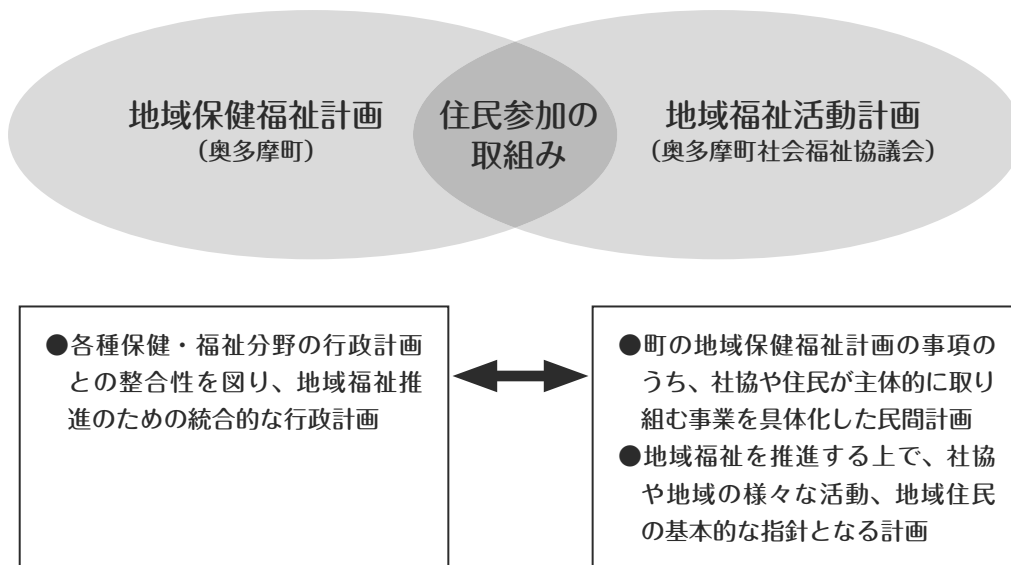
「高齢者が高齢者を支える」「子育てを終えた方が子育て中の住民を支える」といったような、助け合い活動を行うとともに、住民と行政が協働で福祉に取り組む、『地域福祉』を推進しなければなりません。

『地域福祉活動計画』は、住民主体の福祉のまちづくりを実践するため、地域住民の様々な課題の解決に向けた民間の活動目標を示すものです。そして、活動目標の達成に向けて、地域で支えあう「互助」を中心に「地域ぐるみの福祉」を推進するための理念と実効性の高い仕組みをつくり、活動を実践・推進することを目的としています。

また、奥多摩町が策定する「奥多摩町地域保健福祉計画」と連携し、行政とのパートナーシップはもとより、自治会、ボランティア、NPO団体、社会福祉施設、事業者、専門機関などがその役割の中で協働し、実践・推進するための指針として位置づけます。

社会福祉協議会は、組織の構成上、地域のさまざまな公民の関係者により構成され、法律に基づいて地域の福祉関係者の連絡調整や社会福祉を目的とした活動を支援する公共性・中立性を有する民間組織です。こうした組織特性を踏まえ、社会福祉協議会が、営利、非営利、公的を問わずさまざまな活動者や活動団体、地域住民などの相互の協働によって、地域の多様なニーズや福祉課題に応えるさまざまな活動・事業を開発し、地域福祉推進の中核的団体として役割を果たします。

そこで、今回の『地域福祉活動計画』は、目指す将来像の実現に向けた、住民参加型の助け合い、支え合いをコーディネートするための計画書と位置づけます。そして、奥多摩町社会福祉協議会は、『地域福祉』を推進するためのサポーターとしての関わりを強化していきます。



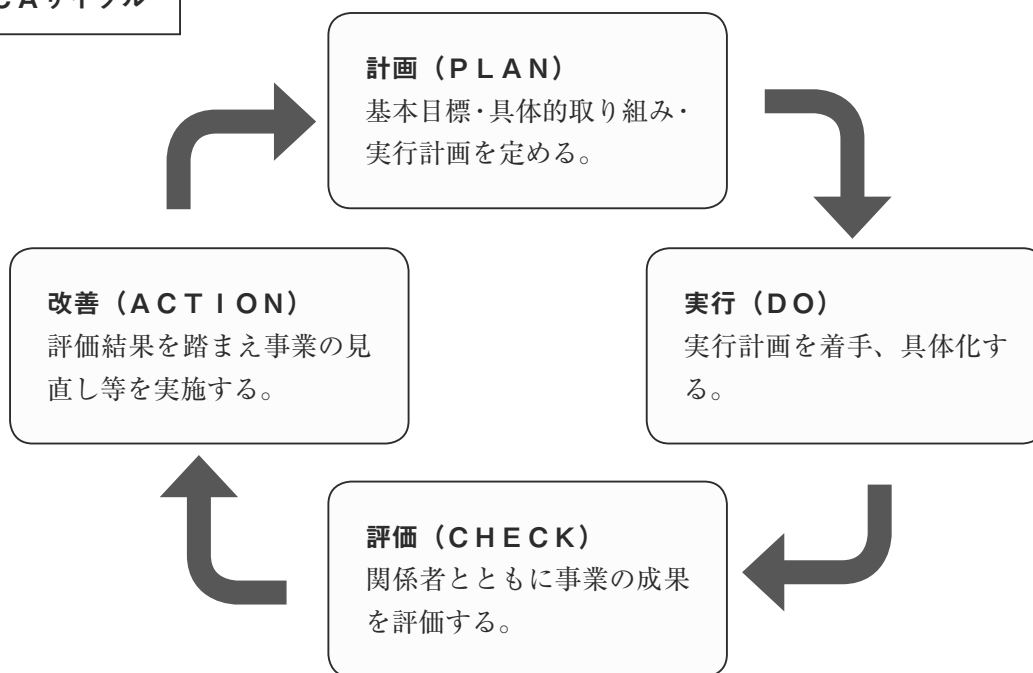
### 3. 計画期間

この計画は平成 28 年度から 38 年度までの 10 年間とします。また、5 年目の平成 32 年度に、社会経済情勢や制度改革など、地域の状況の変化にあわせ、計画の見直しを行います。

### 4. 計画の推進

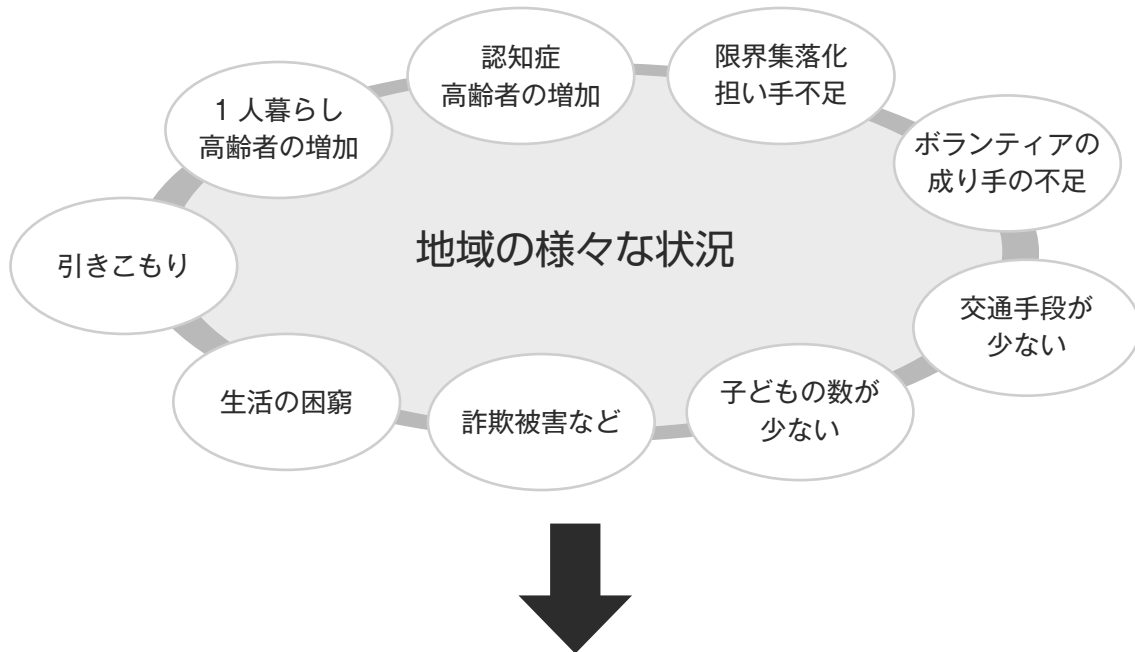
この計画に基づく取組みを推進するにあたっては、関係団体・機関等の相互の連携・調整を図り、毎年度の社会福祉協議会「事業計画」において、できることから位置づけ具体化を図ります。また、事業成果の評価により、計画の進捗管理に努めます。

#### ■PDCAサイクル



## 5. 計画に盛り込んだ視点

### (1) 視点



**みんなで考え、つながり、解決する地域づくり**

#### ① 住民参加型のまちづくり

地域福祉は、地域住民の主体的な参加を大前提にしたものであり、地域住民の主体的な関わりによって進めていきます。計画の策定・実行・検証までの過程を地域福祉活動の実行とします。

#### ② 共に生きるまちづくり

地域福祉は全ての住民に関わる福祉であり、高齢者や障害者、子どもを含む全ての住民が、何か困った時にはみんなで助け合い、支え合う、共に生きるまちづくりという視点を重視します。

#### ③ 自立型の福祉

住民同士の助け合い、支え合いを中心とした地域福祉を展開しながらも、自分でできることは、自力で努め、精神・身体的な衰えを防ぐための予防的な観点で取り組んでいきます。

#### ④ 福祉文化の創造

地域住民による生活に根ざした社会的活動の積み重ねによって、地域の福祉文化の創造を目指します。これによって、子どもの頃から福祉活動に触れる機会をつくり出します。

## (2) プロセスの重視

この計画の推進には、住民自身が自分たちの住む「まち」の課題を発見・共有し、問題を抱えた当事者とともに話し合い、各種のボランティア・NPO法人、関係機関・団体と連携し、解決に向けた取り組みを始めることが必要です。そのため計画進行中のプロセスそのものを重視します。



育てる

- 電球の取替えやちょっとした買い物代行など生活支援サービスをやってみよう
- みんなが集まる地区のサロンをつくってみよう
- みんなで作ったじゃがいもを売ってくれるところを探してみよう
- 空家を利用したグループホームを考えてみよう



知る

- うちの地区にはどんな人がいるのかな？
- あの地区のサロンは何をやっているのかな？
- 配食サービスの利用方法は？
- ほかの認知症の介護者はどうしているのかな？



つなぐ

- 保健推進員さんと何かできないかな？
- 定年退職した人達でできることは何かな？
- ほかのボランティア団体と一緒にできることはないかな？
- みんなが集まる商店の人と何かできないかな？

### 知る

- 各種ボランティア団体や活動内容、地域の様々な行事・活動の内容
- 公的サービス・制度、助け合い活動等の利用・参加方法
- 支援を必要としている方やその困りごとの内容 など

### つなぐ

- 全町的ボランティア活動と自治会等の取組みのマッチング
- ボランティア団体、福祉施設、専門機関等の連携・協働
- ボランティア・助け合い活動に参加したい人と活動団体のマッチング
- 世代間の活動の連携 など

### 育てる

- 新たな生活支援サービス（有償家事援助サービス等）の創出
- 地域の団体（自治会等）による福祉型コミュニティビジネス等の創出
- ボランティア活動の担い手の確保や活動の拡大

## Ⅱ. 地域福祉の将来像



### 1. 地域福祉の将来像とは

私たちが目指す地域福祉の将来像は、

心と心 笑顔と笑顔をつなぐまち 奥多摩

です。

**心と心**は住民同士の思いやりの気持ち、**笑顔と笑顔**は地域のふれあいやみんなで楽しく活動を進めて行く姿勢、**つなぐまち**は支え合いの活動をつなぎ、より安心できるまちを協働し創っていくことを意味します。

私たちは、現在の奥多摩町の良さを引き継ぎ、一步前へ進むことで、この将来像が実感できるまちをめざし、住民一人ひとり、関係機関・団体、そして行政が一緒になって『地域福祉』を進めていきます。

### 2. 基本理念

#### (1) どこに住んでいても福祉の手が行きとどいたまち

- 住民一人ひとりが、住み慣れた地域で、安心して暮らせるようにいつでも、必要な時に、必要な福祉サービスを受けられるようにします。
- 身近な地域の施設を福祉の拠点として活用し、町全体の福祉、保健、医療とのネットワークを形成するなかで、地域の現状と地域のニーズに応じた福祉活動を推進します。

#### (2) 住民一人ひとりがボランティア精神で活動するまち

- 住民一人ひとりがお互いを助け合う相互扶助の考えで生活していきます。
- 住民一人ひとりがボランティア精神で活動する福祉のまちづくりを推進します。

#### (3) 住民と行政が一体となつてつくる福祉のまち

- 住民と行政が一体となつて福祉活動を進めていきます。

### 3. 基本目標

#### (1) 福祉のネットワークづくり

一人で暮らす高齢者や障害者、高齢者のみの世帯、子育てや家族の介護で悩む方などが安心して地域で暮らし続けていくために、地域に住む方たちが協力し合い、見守っていくためのネットワークをつくり、「住民主導による福祉コミュニティづくり」を進めていきます。

#### (2) 安心できる日常生活の支援

誰もが自分に必要なサービスを適切に選択し、利用できるような仕組みを構築し、安心して生活することができるような取り組みを地域住民の協力を得ながら、実施していきます。社会福祉協議会はそのサポーターとして、活動を支えています。

#### (3) ボランティア活動の推進

多くのボランティア・助け合い活動に参画する機会を増やすとともに、ボランティア希望者へのコーディネート機能を強化し、さらに新しいボランティアのメニューを創造し、地域住民の幅広いニーズに対応できる体制を整えます。





## Ⅲ. 地域福祉の展開

### 1. 地域福祉活動の実施計画の体系

基本目標	地域福祉活動の具体的取組み	
福祉のネットワークづくり	(1) 社会参加・交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流活動等情報の普及促進</li> <li>②生涯学習・福祉教育の充実</li> <li>③地域住民や各団体の参加・交流の場づくり</li> </ul>
	(2) 企業・民間団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自治会・老人クラブ等との連携</li> <li>②福祉団体活動の支援・連携</li> <li>③商店街・事業者等との連携・協働</li> </ul>
安心できる日常生活の支援	(1) 住民による助け合いサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域福祉コーディネーター等の養成</li> <li>②地区のサロン・共同農園等の運営支援</li> <li>③新しい生活支援サービスの開発</li> <li>④住民参加型サービスの充実</li> <li>⑤見守り活動の促進</li> </ul>
	(2) 社会福祉協議会の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉協議会の組織力強化</li> <li>②活動支援のしくみの整備</li> <li>③地域ささえあいボランティアなど受託事業の充実</li> <li>④高齢者在宅サービスセンターなどの事業の充実</li> <li>⑤福祉・医療等人材の養成</li> </ul>
ボランティア活動の推進	(1) ボランティア個人・団体への支援活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ボランティアセンターの運営改革</li> <li>②ボランティアの理解促進運動の展開</li> </ul>
	(2) ボランティア活動のコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たなボランティアメニューの開発</li> <li>②「ボランティア通信」の内容の見直し</li> </ul>

## 2. 地域福祉活動の具体的取組み

### 福祉のネットワークづくり

#### (1) 社会参加・交流の場づくり

##### ① 交流活動等情報の普及促進

社会福祉協議会の働きかけにより、各地区の公共施設、生活館、駅舎、商店・飲食店、郵便局・診療所など人が集まる施設の協力を得て、催しや支え合い情報の流通を図る「交流・つながり掲示板」の設置を進めていきます。また、各ボランティア団体・自治会・サロン等での催しや活動をインターネットにより情報発信するため、社協ホームページへの情報の連結や、ブログ等の立ち上げ支援に取り組みます。

#### 実行計画

知る



- 「交流・つながり掲示板」の設置に協力してもらえる施設を調べるとともに、掲示できる情報や掲載の方法、ルール等を整備します。

つなぐ



- 情報提供側と「交流・つながり掲示板」設置施設との自発的な連携により、様々な情報が提供できるようにします。
- 社会福祉協議会のホームページに各ボランティア団体・施設等のホームページ等を連結し、様々な活動がわかる総合的なサイトを構築します。

育てる



- 各ボランティア団体等でのインターネット掲示板の立ち上げを支援するブログ・ホームページ作成教室を開催するとともに、情報の拡散方法やメンテナンス等への支援を行います。



## ②生涯学習・福祉教育の充実

奥多摩町社会福祉協議会で取り組める講座・教室を企画し、地域住民の社会参加をうながす機会を拡充します。また、小中学校等と協力し、福祉教育の推進に努めます。

### 実行計画

知る



- ライフステージ毎の関心、介護・健康づくり・ボランティア参加・サロン運営・防災活動・作物づくりなど個別テーマに沿う学習ニーズの把握に努めます。

つなぐ



- ニーズに沿った講座・教室を開催するとともに、ワークショップ形式による参加型学習会の実施に努めます。また、受講終了後の方の組織の育成、町内外の講師の確保につとめ学習を支援するネットワークづくりを進めます。

育てる



- 各個別テーマを継続的に学習していく団体・サークル等を組織化し、町内における学習サポーター・講師の育成を進め、自治会等への出前学習会が開催できるように体制づくりを図ります。
- 小中学校等と協力し、交流・体験等を交えた福祉教育のプログラムの開発、展開に努めます。また夏体験ボランティアを継続して実施します。



### ③地域住民や各団体の参加・交流の場づくり

「福祉バザー」や「ふれあいスポーツ大会」「ゲートボール大会」「障害者絵画展」、各福祉施設での交流会など福祉に関する参加・交流の場づくりをはじめ、「おくてん」「奥多摩ふれあいまつり」など町内外の人の交流を促進する観光イベント等も含め参加者の拡大、運営への支援に取り組みます。

#### 実行計画

知る



- 関係機関等と連携・協力し、カレンダー型の各種イベントの情報提供サイトの立ち上げを検討していきます。

つなぐ



- イベント等の実行委員会に参画し、各種団体の相互乗り入れ、協力体制づくりを進めていきます。
- 各種の体験型催し（カヌー、陶芸など）を実施している団体等と当事者団体・ボランティア団体・福祉施設等が連携し、障害者・子ども・高齢者等をサポートしながら開催できるようプログラムの開発を検討します。

育てる



- イベント開催に必要な資材や模擬店等のマンパワーの所在を把握し、貸し借り・相互協力を促進したりするなど、イベント実施の側面的支援を進めます。
- 関係機関と協力し、イベント等へのお手伝いをお願いできる町外の方の組織化等に取り組み、実施体制の整備に努めます。

## (2) 企業・民間団体等との連携

### ①自治会・老人クラブ等との連携

自治会・老人クラブ等との情報交換や交流を通じて、福祉施策へのニーズや、福祉サービスに関わる課題を把握するとともに、各団体相互や社会福祉協議会との連携強化を進めます。

#### 実行計画

知る



- 各自治会のボランティア参加者等と協力したサロン活動の立ち上げ等を通じ、自治会・老人クラブにおける福祉施策へのニーズや困りごと、自発的活動への支援ニーズ等の把握を進めます。

つなぐ



- 社会福祉協議会の連絡調整機能を活かし、町、専門機関、ボランティア団体等及び自治会相互の連携につなげていきます。
- 自治会内に所在する、福祉施設・飲食店・観光事業者等の相互連携を図り自治会活動への協力に向けた取り組みに努めます。

育てる



- 各自治会・老人クラブにおいて、各種の自主的活動を実施するにあたり、外部からの支援が受けられるようにサポート体制の整備に努めます。

## ②福祉団体活動の支援・つながりの促進

福祉団体への活動支援をおこなうことによって、同じ立場にある方同士の交流や情報交換、問題解決、幅広い交流などを促進し、さらにボランティア団体同士やサポート機関とのつながりを促進します。

### 実行計画

知る



- 福祉団体相互の情報交流を促進させるため、ボランティア団体連絡会等を充実し、個別の課題、連携できること等の把握に努めます。

つなぐ



- 各種のボランティア団体、当事者団体、サポート機関等との間をつなぎ、より充実したサポートができるように調整を図ります。

育てる



- ボランティア団体・福祉団体等への助成事業や自主保育グループ・障がい者（児）支援団体の活動への支援を継続します。
- 社会福祉協議会主催のボランティア連絡会やボランティアの集いにおけるワークショップ・話し合いを通じ、自主的取り組みの促進及び公的福祉施策に対する意見集約等の機能を高めます。
- 高齢者介護・認知症、引きこもり、不登校等の各種家族会の立ち上げ、運営支援を行います。
- 福祉団体等による新たな取り組み（例グループホームの整備）に対し、社会福祉協議会の立場から、その促進を支援していきます。

### ③商店街・事業者等との連携・協働

商店街や郵便局・訪問型の事業者などに、地域福祉につながるサービスを積極的に開発してもらい、福祉において協力し合えるしくみづくりの整備に努めます。また、福祉的なサービス展開に向け、その支援の有り方を検討していきます。

#### 実行計画

知る



- 奥多摩商業協同組合や奥多摩観光協会、移動販売事業者等と協力し、買い物困難地域における買い物サービスの有り方等を検討します。
- 郵便局・宅配便・新聞販売店・コンビニ・LPガス事業者、金融機関等の訪問型事業者との連携による見守り情報の照会のしくみづくりを検討します。

つなぐ



- 奥多摩商業協同組合等と連携し、高齢者等のちょっとしたお休み処としての開放や徘徊等での一時保護など、外出時等での見守りサポーターとしての協力を働きかけていきます。
- 町等防災関係機関と連携し、災害ボランティアセンターとして、大雪が予想されるなどの場面における、一時的な宿泊避難施設として、民宿等との協力の有り方を検討していきます。

育てる



- 買い物お届けサービスや見守りネットワーク形成に対し、社会福祉協議会としての支援を検討していきます。

## 安心できる日常生活の支援

### (1) 住民による助け合いサービス

#### ①地域福祉コーディネーター等の養成

地域における各種の活動の立ち上げ、既存の活動の継続的発展、諸活動の連携、新たな生活支援サービス等の開発に取り組む地域福祉コーディネーターを配置し、住民主体の様々な地域福祉活動・まちづくり活動のサポートを行います。

#### 実行計画

知る



- 地域における諸活動の課題、取り組みたい活動等を把握するとともに、その推進リーダーとなる人材の発掘を進めます。

つなぐ



- 地域の様々な人材等を組織化しながら、各種の専門機関・公的サービス・助け合い活動をつなぎ、地域の実情等に沿う活動を後押しする地域福祉コーディネーターを社会福祉協議会に配置します。
- 町の介護保険制度における生活支援コーディネーター・協議体の取り組みと連携を図ります。

育てる



- ボランティア、シニア世代、地域づくりに熱意のある移住者等に対し、様々な研修プログラム等の学習・実践を通し、地域福祉コーディネーターとしての育成を進めます。



## ②地区のサロン・共同農園等の運営支援

地域福祉コーディネーター等の働きかけにより、各自治会において、地区の住民、ボランティア、サークル、事業者等が連携する、サロン・共同農園等の立ち上げ、運営支援に取り組みます。

### 実行計画

知る



- おしゃべり会や共同の農園などのサロン活動を既に行っている自治会の取組みを把握し、他の自治会での活動のきっかけとなるように、PRしていきます。

つなぐ



- ボランティア、地区のサークル、保健推進員、民生・児童委員など様々な方によるサロン運営グループの組織化を支援していきます。
- 地区の住民、事業者、ボランティア、専門機関等がそれぞれ協力できる事柄を調整し、サロン活動のメニューの拡大を進めます。
- メニューの拡大により引きこもりがちの方などの参加を呼び掛けていきます。

育てる



- おしゃべり会、健康体操、カラオケ、料理教室、畑づくり、工芸などができる様々な方にとっての居場所としてサロンを育てていきます。
- サロンの参加者により、未参加の方への見守りや支援が必要な方へのちょっとしたお手伝いなど、サロンから地域へと活動が広がるような取組みを検討していきます。

### ③新しい生活支援サービスの開発

一人暮らしや高齢者のみ夫婦世帯等の増加に対応し、住民・ボランティア・NPO法人・事業者等が主体となる、ちょっとした生活支援サービスの展開を進め、地域において暮らし続けることができるサポート体制の整備に取り組みます。

#### 実行計画

知る



- ごみ出し、買い物代行、菜園のお手入れ、立木の伐採、雨どいの補修、家具の移動や清掃、除雪など、介護認定等に係りなく、誰もが利用できる新たな生活支援サービスのニーズを把握します。

つなぐ



- ボランティア、住民、事業者等の事業参入を促すとともに、地域包括支援センターや子ども家庭支援センター、障害者地域活動支援センター等と連携し、公的サービスの隙間を埋めるサービス提供に努めます。

育てる



- 町と協力し、介護保険サービスにおける新しい生活支援サービス事業としての実施団体の組織化、事業化への支援を行うとともに、その利用を促進するPR等を行います。
- 介護保険サービス外のお助けサービスの事業化を支援するとともに、守秘義務等のサービス展開に必要な研修等を実施します。

#### ④住民参加型サービスの充実

有償家事援助サービス、配食サービス、地域ささえあいボランティア、ファミリーサポート等の住民参加型サービスの普及促進をはじめ、ボランティア・サポート会員の確保、育成等を進め、その拡充を図ります。

#### 実行計画

知る



- 各種の住民参加型の有償ボランティアサービスの利用実態、運営への課題等を把握するとともに、サービス等の利用が促進されるようPRを進めます。

つなぐ



- 民生・児童委員、保健推進員、ボランティア、地域包括支援センター等公的機関等との情報交換を密にし、サービス利用が望ましい方の把握に努めるとともに、サービス利用に向けての個別の働きかけを行います。

育てる



- 住民参加型サービスの担い手の確保・育成をめざし、広く普及を図るとともに、サービス内容に応じ研修・学習会等の開催等を含め、より楽しく参加できるような支援に取り組みます。



### ⑤見守り活動の促進

一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、認知症の方、児童などの安全確保、安否確認や孤立を防止するための声かけなどを、高齢者見守り相談事業、見守りのシステム、地域による相互の見守りなどを組み合わせ、安心できる暮らしを確保します。

## 実行計画

知る



- 高齢者見守り相談事業のPRを進めるとともに、見守りが必要な様々な方の把握に努めます。

つなぐ



- 民生・児童委員、保健推進員、ボランティア、地域包括支援センター等公的機関等との情報交換を密にし、見守りが必要な方の支援を強化するとともに、地域でのサロン・催しへの参加の働きかけ、日常生活におけるやわらかな見守り習慣の定着、ちょっとした助け合いの促進に努めます。
- 町外に居住する家族等との連絡、訪問型事業者等の連絡方法などを工夫し見守り体制を強化していきます。

育てる



- 認知症サポーター、徘徊高齢者の早期保護など見守りネットワークを強化していきます。

## (2) 社会福祉協議会の取り組み

### ① 社会福祉協議会の組織力強化

社会福祉協議会は、地域住民の一人ひとりが暮らしやすい生活を送れるように、行政等の関係機関および団体の協力を得て、提言していくとともに、地域での助け合いの意識を高めるための普及・啓蒙活動の推進をはじめ、介護保険事業者等としての体制整備に努めます。

#### 実行計画

知る



- 地域住民、関係機関などとの意見交換をより充実し、地域福祉ニーズの把握に努めます。
- 介護保険事業者等として、第三者委員会等による苦情対応、サービス受給者との話し合い、評議員会など様々な評価・意見により法人・事業の運営をより充実させていきます。

つなぐ



- 社会福祉協議会が音頭をとり、新たな地域福祉プロジェクトを推進する取り組み等を試行するなど、地域福祉の調整機関として、地域の諸団体・事業者等のより一層の連携を図ります。
- 町など関係行政機関職員との業務上における連携をはじめ、定期的な連絡会等の開催により課題の共通認識、連携の推進等を検討していきます。

育てる



- 社会福祉協議会職員の研修を充実させ職員の意識改革を推進するとともに、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を奨励します。
- 地域福祉推進の中核団体として、また各種事業の実施者として社会福祉協議会の人員体制の充実を図ります。

## ②活動支援のしくみの整備

地域福祉活動のより一層の気運の醸成に向け、様々な取り組みの研究・奥多摩町での展開に努めるとともに、支援していくしくみづくりの充実を検討して行きます。

### 実行計画

知る



- 活動団体に向け、東京都社会福祉協議会等の各種の助成事業の照会、他地域での先進的取り組みの等の視察など、地域福祉活動への取り組みが広がるよう情報提供を進めます。

つなぐ



- 社会福祉協議会の福祉事業への寄付金、福祉バザーの収益等自主財源の拡充に努め、諸活動への支援を図ります。

育てる



- 提案型の活動への支援を進めるクラウドファンディング（※）等の手法を研究し、活動の立ち上げ等を支援していくしくみづくりを検討します。

※クラウドファンディング：「ある目的」のために、インターネットを通じて不特定多数の人から資金の出資や協力を募ることをいいます。

### ③地域ささえあいボランティアなど受託事業の充実

社会福祉協議会は外出支援サービス事業（病院・診療所通院）、高齢者筋力向上トレーニング事業、地域ささえあいボランティア事業等を町から受託しており、これらのサービスのPR、担い手確保、事業の充実に努めます。

#### 実行計画

知る



- 諸サービスのPRを進めるとともに、サービス利用者・ボランティアのニーズを把握し、より充実したサービス展開に向けて工夫していきます。

つなぐ



- 高齢者を対象に介護予防事業の一環として、高齢者筋力向上トレーニング事業を実施するとともに、森林セラピー事業、ウォーキングイベント、共同農園等の催しへの参加を働きかけて行きます。
- 地域ささえあいボランティア事業における通院・買い物支援のほか、自宅外での見守りにおいて地域のサロン等の活用を図ります。

育てる



- 地域ささえあいボランティア事業等の参加者の確保を進めるとともに、運営の改善等に努め、定着・普及を図ります。



#### ④高齢者在宅サービスセンターなどの事業の充実

社会福祉協議会は介護保険事業者として、奥多摩町高齢者在宅サービスセンター（通所介護事業・予防通所介護事業・配食サービス事業）をはじめ、ヘルパーステーション“おくたま”、ケアサポート奥多摩（ケアプラン作成）を実施するとともに、障害者自立支援事業（ヘルパー・ガイドヘルパー派遣）等を行っています。これらのサービスの内容の充実を図るとともに、今後の展開に向けて研究していきます。

### 実行計画

知る



●サービス提供事業者として、現場における介護・地域生活支援ニーズの把握や課題を検討していくとともに、介護保険事業計画、障害福祉計画等の政策決定へつないでいきます。

●利用者が少ない障害者自立支援事業等のPRを進めます。

つなぐ



●介護保険サービス利用者等への、介護保険以外の諸サービスの照会や助け合い活動の利用などを働きかけ、日常生活のサポートが受けられるよう努めます。

●相談業務等において、サービスを利用をしていない方を地域包括支援センター、障害者地域活動支援センター等へつなぎ、適切なサービスが受けられるように調整機能を果たします。

育てる



●在宅介護等のニーズに応じ、奥多摩町の地域特性に合うサービスの有り方を研究していきます。



## ⑤福祉・医療等人材の養成

慢性的な医療・福祉人材の不足を改善するため、看護師、介護福祉士、ホームヘルパー等の修学支援の拡充や有資格者への就業機会の情報提供等を進めるとともに、若者定住対策における雇用の場づくり等との連携により、医療・福祉サービスの充実に努めます。

### 実行計画

知る



- 福祉施設・在宅介護事業における人材確保への支援ニーズを把握するとともに、有資格者の把握、新たな資格取得への支援ニーズを把握します。
- 学生・若者等を対象に、福祉施設、地域包括支援センター等との協力による職場見学など、福祉・医療の仕事のPRに取り組みます。

つなぐ



- 若者定住対策において、U・J・Iターン希望者への町内における福祉・医療の職場の紹介等を進めます。

育てる



- ヘルパー育成研修受講料の助成等を継続するとともに、効果的な受講者の募集方法の検討、町と協力し就学・資格取得支援の有り方を検討します。
- 町内の福祉事業者におけるワーク・ライフバランスなど働きやすい職場づくりに向けた啓発等を進めます。
- 福祉・医療等の専門職の相互連携が拡充されるよう、福祉・医療施設、在宅サービス事業に従事している方の交流、課題解決ワークショップ等の開催を検討します。

## ボランティア活動の推進

### (1) ボランティア個人・団体への支援活動

#### ① ボランティアセンターの運営改革

ボランティアセンター運営委員会を充実し、住民が主体となった運営を進め、より効果的・効率的に運営します。

#### 実行計画

知る



- ボランティア活動の情報・連携の中核として、ボランティアセンター運営委員会の自主的な情報提供等を支援し、ボランティア活動の拡大に努めます。
- ボランティアセンターにおいて、ボランティア情報等が容易に理解できる掲示など情報提供を進めます。

つなぐ



- 施設のボランティアコーディネーター、自治会・老人クラブ等との連携を密にし、ボランティアニーズの発掘、ボランティア団体同士の連携による活動促進を支援します。

育てる



- ボランティアセンター事務局機能の強化に努めます。
- ボランティアセンターによる各種ボランティア団体、福祉施設・介護・保育の現場、地域の取材等により、身近な観点から情報収集を進め、町の様々な動きがわかるような情報提供に努めます。

## ②ボランティアの理解促進運動の展開

より多くの人々にボランティア活動への理解を深め、参加してもらえるよう、様々な方法で周知し、その機会を提供していきます。

### 実行計画

知る



- 福祉バザー、ボランティアの集いや各種イベントにおいてボランティア団体の活動PRを進めます。
- ボランティア団体が実施している活動の体験ツアー等を企画し、より理解を深める取り組みを進めます。

つなぐ



- リタイア期や壮年期のタイミングで、ボランティア活動、各種まちづくり活動等への参画を呼び掛ける学習会等を開催し、より多くの住民の参画を後押しする取り組みを進めます。
- いなか暮らし支援住宅入居者等移住者向けへの情報提供を進めます。

育てる



- 各ボランティア団体の参加者募集や団体運営への支援、ボランティア情報のマッチング等を強化します。
- ボランティア保険の助成を行い、参加者の支援に努めます。

## (2) ボランティア活動のコーディネート



### ① 新たなボランティアメニューの開発

従来の狭義の福祉に限らない多様なニーズに対応するために、新たなボランティア活動を開発・支援していきます。

#### 実行計画

知る



- 助け合い・交流活動を中心に、奥多摩町における様々なお手伝いニーズの発掘に努めます。
- ちょっとしたお手伝いの参加意向を把握し、その活用を図るしくみづくりを研究します。

つなぐ



- 中学生による高齢者向けゲーム教室、高齢者による特産物づくり教室、青年層による高齢者向けスマホ活用講座など様々な企画を支援しながら、誰もが何かができる実感を高めて行きます。
- 町外の方を募集し、地域と協働・交流できる農林業等の様々な活動、催しの企画を支援し、町外の力を導入する機会の拡充に取り組みます。

育てる



- 手話・指圧・点字講習会等を継続するとともに、健康づくり、レクリエーション、趣味活動、学習活動など様々な活動とボランティア活動の接点を開発し、ボランティアメニューの拡充に努めます。
- 個人ボランティアの促進、組織化等に向け、ボランティア学習会等の受講修了者や企業ぐるみのボランティア、消防団OBなど登録者を募り、ボランティア登録者数を増員します。



## ② 「ボランティア通信」等の内容の見直し

「ボランティア通信」「おくとま ふくし」について、ボランティア活動への参加の促進、地域福祉への理解の醸成、制度・サービス等の普及を図るため、情報・広報活動の内容等の見直しを進めます。

### 実行計画

知る



- 「おくとま ふくし」は読みやすい編集を進め、社会福祉協議会及び事業等の周知に努めます。

つなぐ



- ボランティア通信に関しては、ボランティアセンターによる自主的編集へと切り替え、ボランティア活動のほか、自主サークル、地域の活動等を取り上げるなど、より興味をもてるような情報提供を進めます。

育てる



- 情報提供先との連携を図り、紙面の充実に努めます。



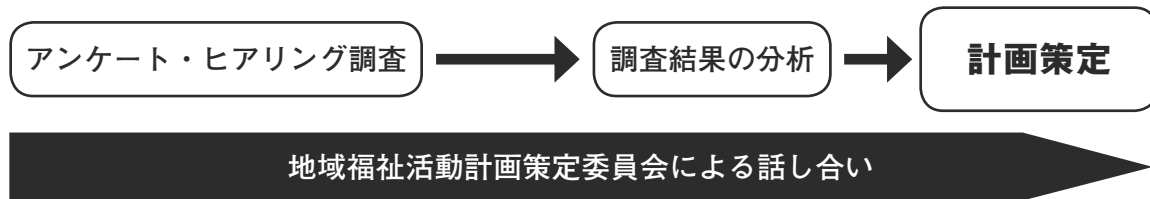
Yamabiko Plan DATA

# やまびこ計画・資料編

心と心 笑顔と笑顔をつなぐまち 奥多摩

## 1. 計画策定の経過

この計画は、住民アンケート調査や地域住民、関係団体へのヒアリング調査結果を基に、地域福祉活動計画策定委員会に参加した、地域住民や関係機関・団体が一緒になり策定したものです。



### 話し合いの経過

第1回 (平成27年7月17日)	(1) 地域福祉活動計画策定委員の委嘱 (2) 地域福祉活動計画策定委員会正副委員長の選出 (3) 諮問 (4) 地域福祉活動計画策定の経過について
第2回 (平成27年9月3日)	(1) 第2期やまびこ計画の検証 (2) アンケート調査について ※調査方法・内容等の検討 (3) 計画策定までの概要・スケジュール説明
アンケート実施 (平成27年11月下旬)	(対象) 700世帯 ※アンケート結果は資料編(P37)参照
ヒアリング (平成27年12月3日～4日)	(対象) ○老人クラブ ○保健推進員 ○子育てグループ ○自治会長  ○民生・児童委員 ○ボランティア団体 ○障害者団体等 ○介護経験者 ○関連機関 ※ヒアリング結果は資料編(P51)参照
第3回 (平成28年1月15日)	(1) アンケート・ヒアリング調査結果について (2) 地域福祉活動計画の基本目標の検討 (3) 地域福祉活動計画の骨子の検討
第4回 (平成28年2月10日)	(1) 地域福祉活動計画の名称の検討 (2) 新実施計画の内容検討
第5回 (平成28年3月9日)	(1) 奥多摩町地域福祉活動計画「やまびこ計画」について (2) 答申について



## 2. 地域住民アンケート調査結果の概要

### 調査の概要

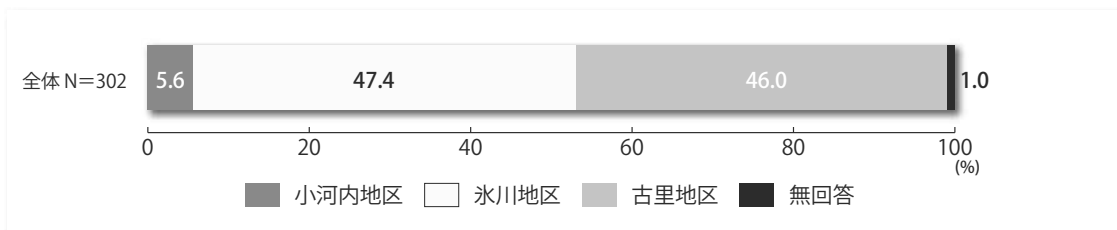
調査目的	奥多摩町地域福祉活動計画策定に伴う基礎調査
調査対象	住民基本台帳より 20 歳以上～ 80 歳未満までの方を 700 名無作為で抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	平成 27 年 11 月 19 日～ 12 月 7 日
回収結果	アンケート回収数 (302 票) 回収率 43.1%

### 回答者の属性

#### ◆あなたのことを教えてください

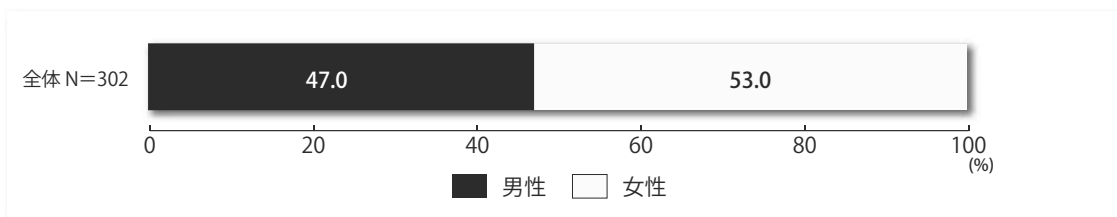
#### ■住んでいる地区 (○は一つだけ)

居住地区は、「小河内地区」5.6%、「氷川地区」47.4%、「古里地区」46.0%となった。



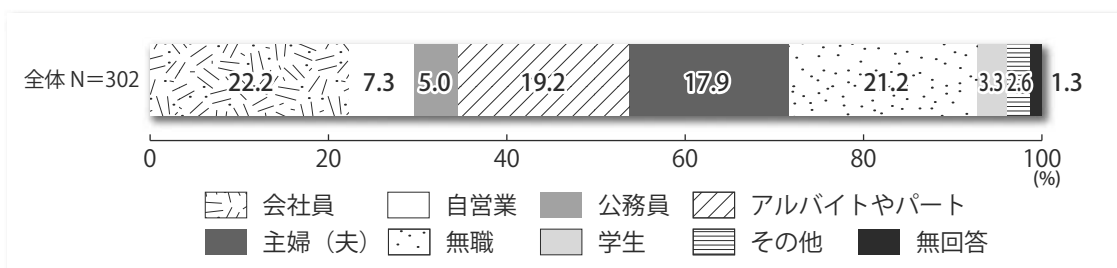
#### ■性別 (○は一つだけ)

性別は、「男性」47.0%、「女性」53.0%と、「女性」がやや上回る。



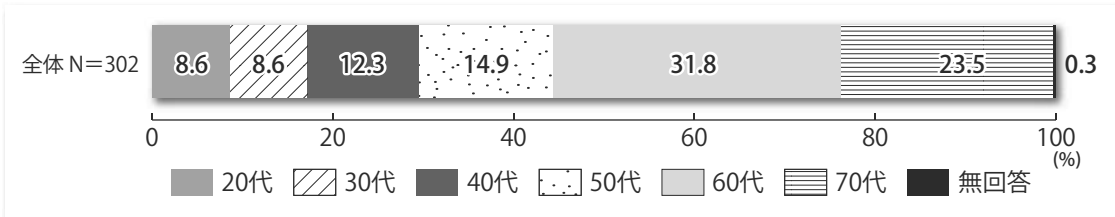
#### ■職業 (○は一つだけ)

職業は、「会社員」が 22.2%、「無職」が 21.2%と同程度で多く、次いで「アルバイトやパート」19.2%、「主婦 (夫)」17.9%が続く。



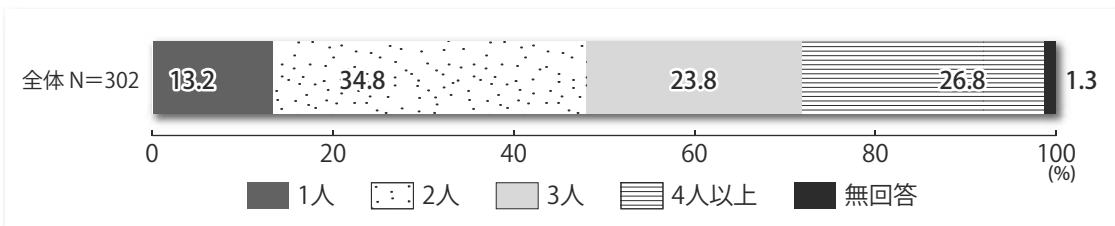
### ■年齢（○は一つだけ）

年齢は、年齢層が上がるにつれ回答割合が高くなる傾向がある。



### ■世帯員数（○は一つだけ）

世帯員数は、「2人」が34.8%と最も多く、次いで「4人以上」26.8%、「3人」23.8%と続き、「1人」は13.2%であった。

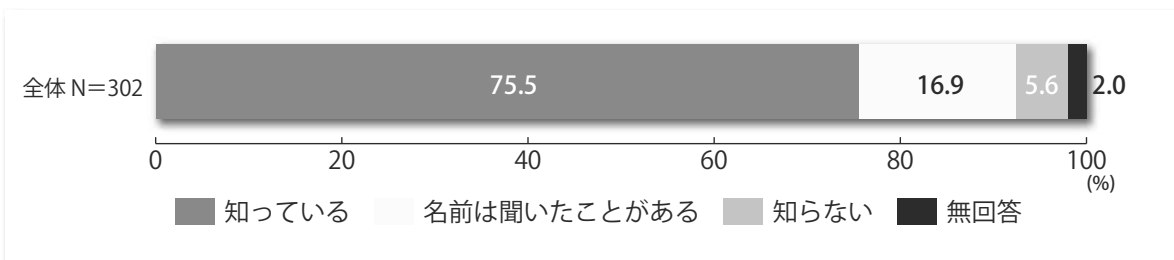


## 設問

### ◆社会福祉協議会についてお伺いします

#### 問1 社会福祉協議会を知っていますか？（○は一つだけ）

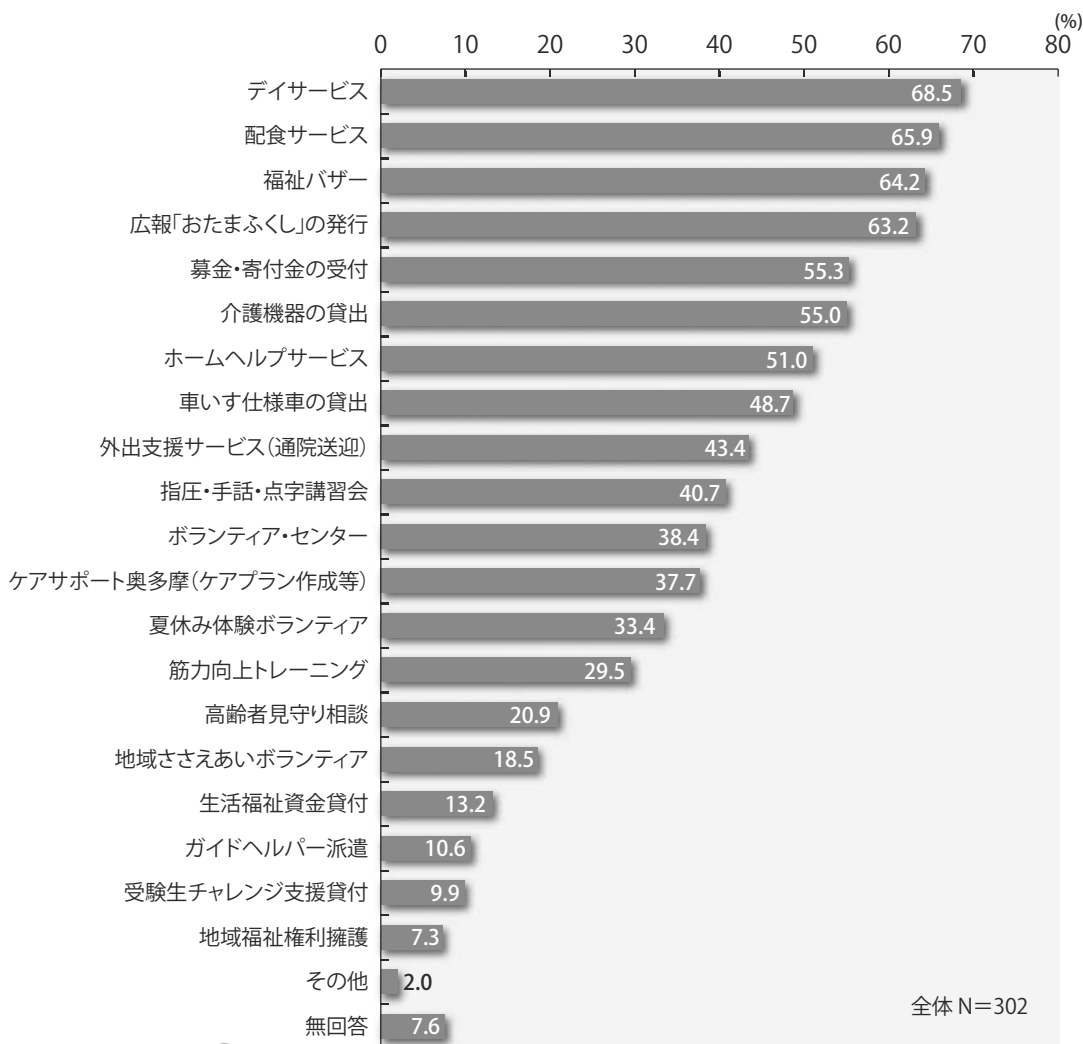
社会福祉協議会に関しては、「知っている」が75.5%を占め最も多く、「名前を聞いたことがある」16.9%まで含む認知度は92.4%となった。前回（平成16年12月調査 10年前）の認知度94.3%であり、大きな差は見られない。



## 問2 社会福祉協議会の活動内容で知っているものはありますか？（〇はいくつでも）

社会福祉協議会の活動内容に関して、認知度が高い順に、「デイサービス」が68.5%と最も多く、次いで「配食サービス」65.9%、「福祉バザー」64.2%、「広報「おたまふくし」の発行」63.2%は6割以上の方が知っている。次いで半数以上に知られている活動は、「募金・寄付金の受付」55.3%、「介護機器の貸出」55.0%、「ホームヘルプサービス」51.0%となった。

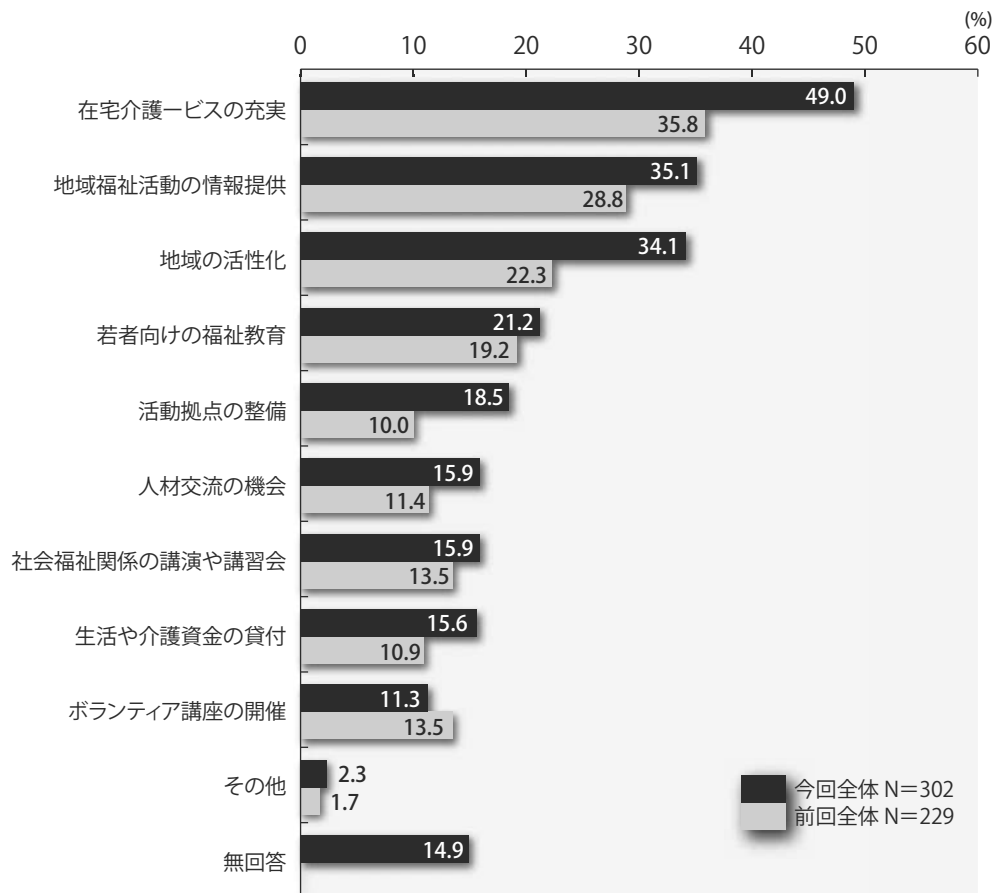
一方、「地域ささえあいボランティア」18.5%、「生活福祉資金貸付」13.2%、「ガイドヘルパー派遣」10.6%、「受験生チャレンジ支援貸付」9.9%、「地域福祉権利擁護」7.3%の認知度は2割を下回る。



### 問3 社会福祉協議会に求めるもの・期待するものがありますか？（○はいくつでも）

社会福祉協議会に求めるもの・期待するものに関しては、「在宅介護サービスの充実」が49.0%と最も多く、次いで「地域福祉活動の情報提供」35.1%、「地域の活性化」34.1%、「若者向けの福祉教育」21.2%、「活動拠点の整備」18.5%が続く。

なお、前回調査に比べ「ボランティア講座の開催」以外は、いずれも高い回答割合となっており、中でも「在宅介護サービスの充実」や「地域の活性化」、「活動拠点の整備」は大きく上回っている。



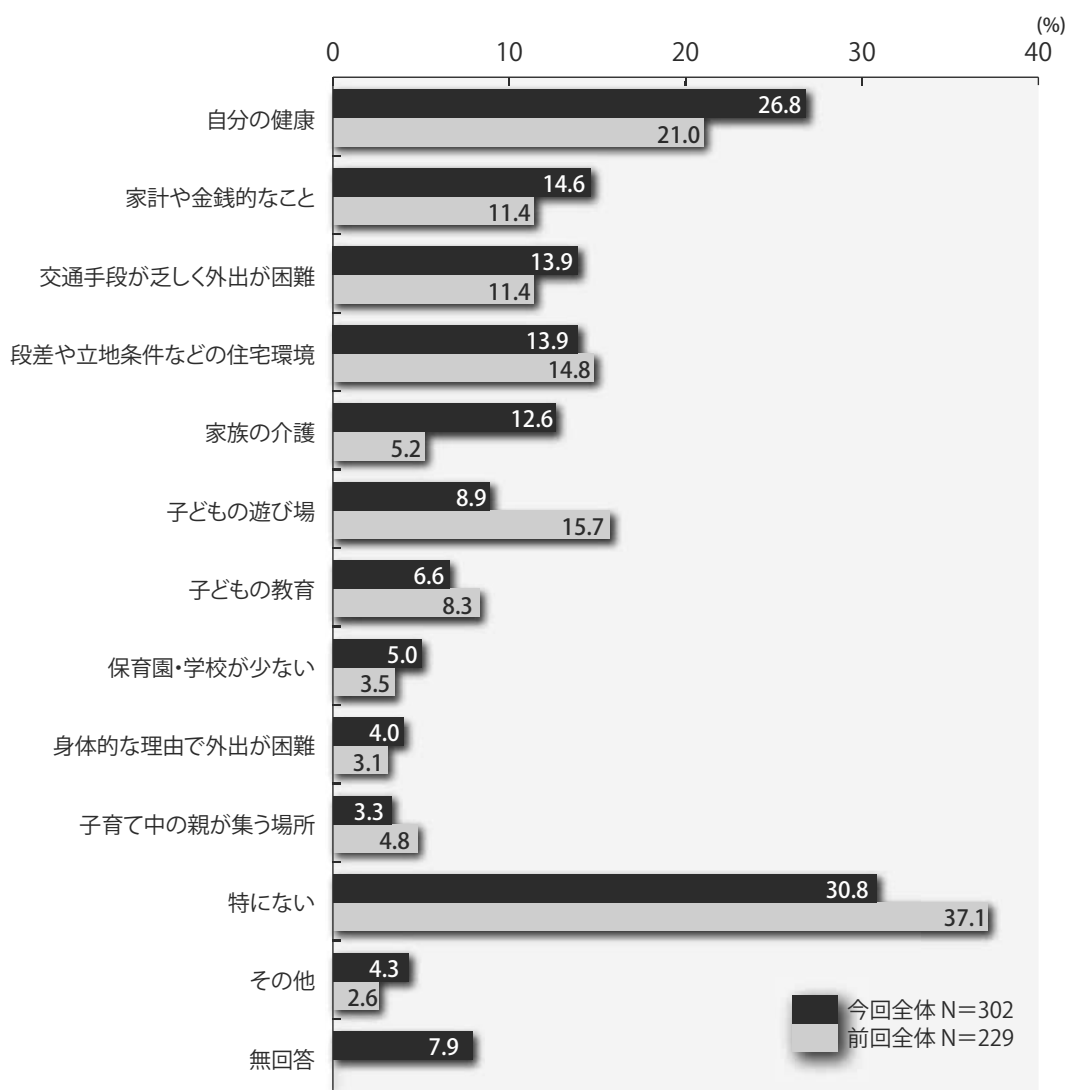
※前回調査は、第2期やまびこ計画策定に伴う住民アンケート調査（平成16年）

◆現状での生活上の問題点についてお伺いします

問4 どんなことでお困りですか？（○はいくつでも）

生活上の困りごとに関しては、「自分の健康」が26.8%と最も多く、次いで「家計や金銭的なこと」14.6%、「交通手段が乏しく外出が困難」13.9%、「段差や立地条件などの住宅環境」13.9%、「家族の介護」12.6%、「子どもの遊び場」8.9%と続くが、回答は分散傾向にある。

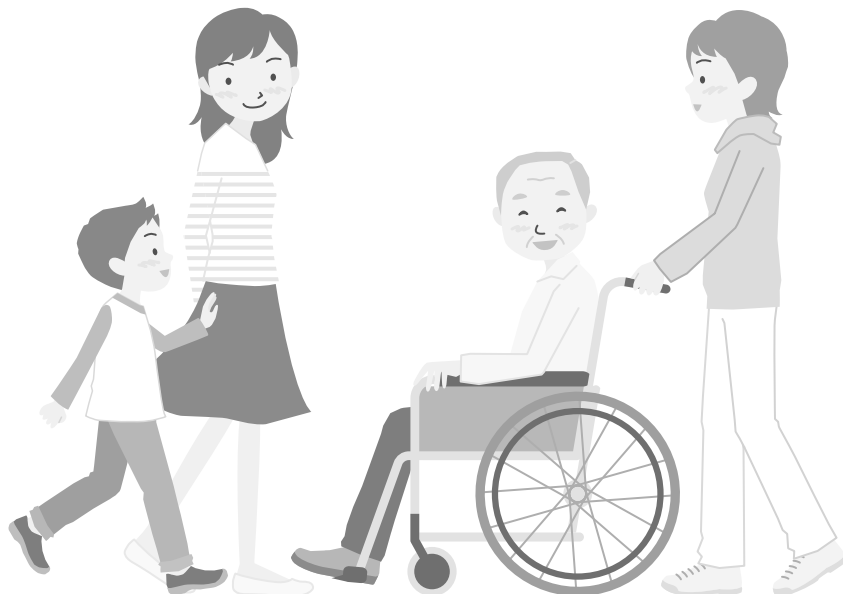
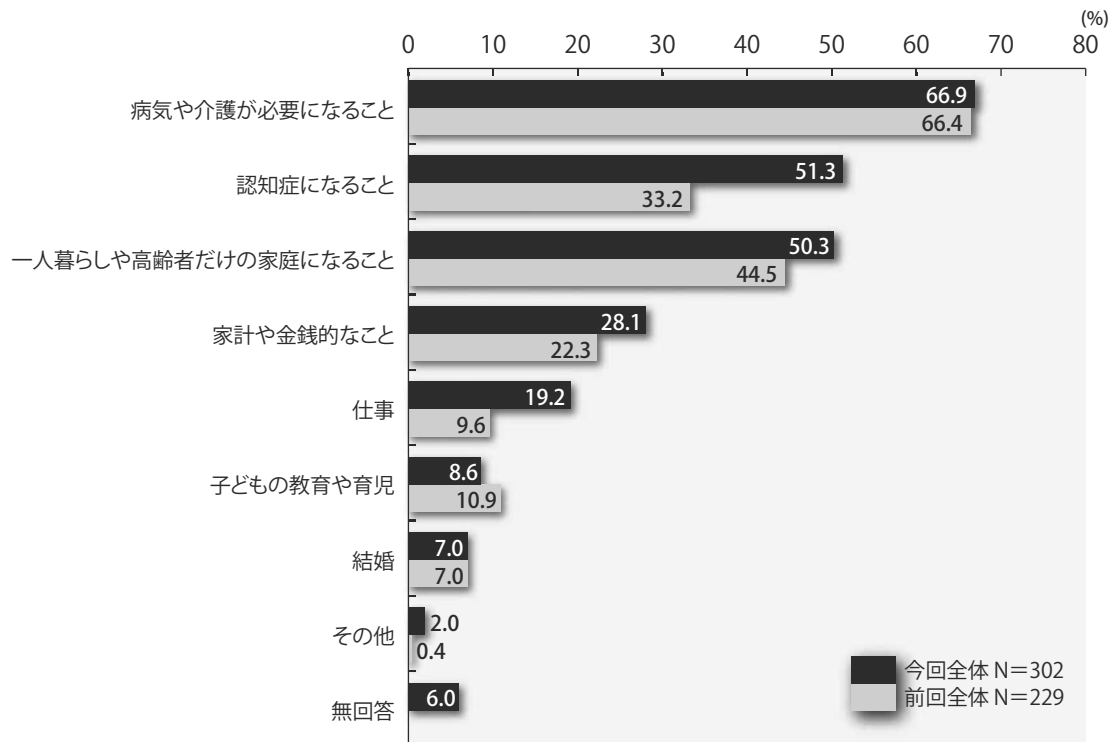
なお、前回調査に比べ「自分の健康」や「家族の介護」の割合が高くなる一方、「子どもの遊び場」は低くなっている。



## 問5 あなたやご家族にとって将来に向け不安に感じることはなんですか？（○はいくつでも）

将来に向けての不安に関しては、「病気や介護が必要になること」が66.9%と最も多く、次いで「認知症になること」51.3%、「一人暮らしや高齢者だけの家庭になること」50.3%が続き、将来的な介護に関する不安が上位を占めている。

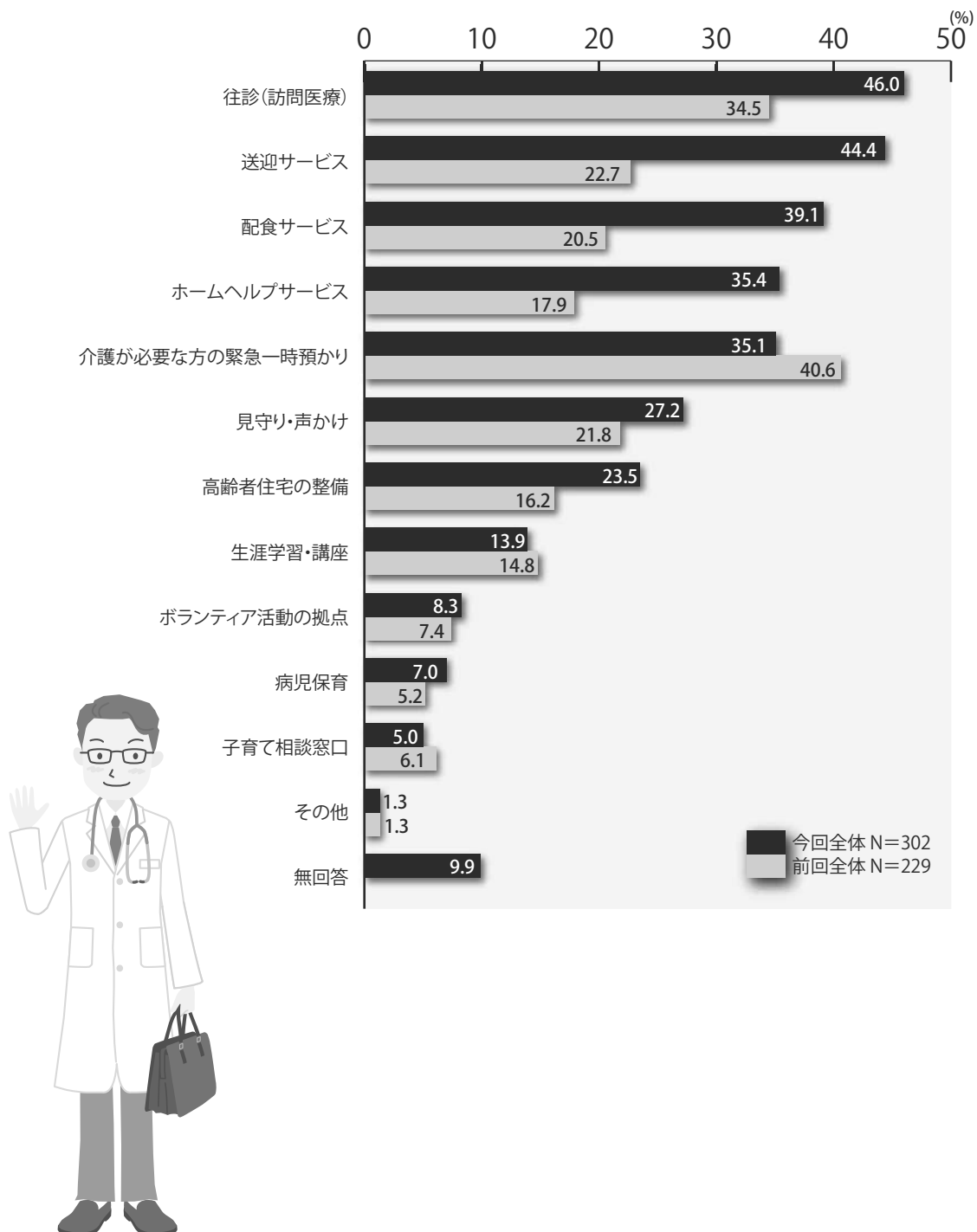
なお、前回調査に比べ「認知症になること」はかなり高くなり、また「仕事」も低い割合ではあるが、前回に比べ倍増している。



問6 こんなサービスが大切、必要になれば使いたいと思うものはありますか？（〇はいくつでも）

必要になれば使いたいサービスとしては、「往診（訪問医療）」46.0%、「送迎サービス」44.4%が4割を超え、次いで「配食サービス」39.1%、「ホームヘルプサービス」35.4%、「介護が必要な方の緊急一時預かり」35.1%が3割台で続く。

なお、前回調査に比べ「介護が必要な方の緊急一時預かり」「生涯学習・講座」「子育て相談窓口」を除くと、各サービスとも回答割合が上がっているが、中でも「送迎サービス」「配食サービス」「ホームヘルプサービス」は概ね倍増している。

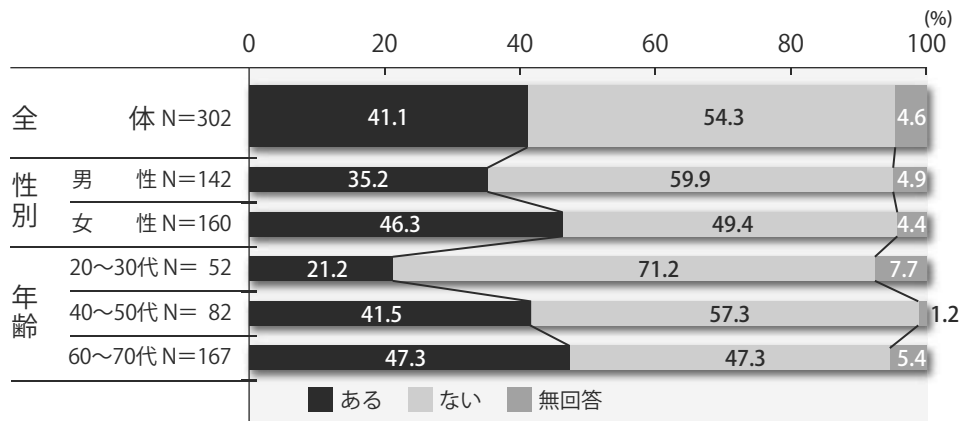


◆隣近所へ貢献していること・できることについてお伺いします

問7 今までに、あなたが行なった隣近所への助け合い活動はありますか？（○は一つだけ）

隣近所の助け合い活動の経験については、「ある」が41.1%、「ない」が54.3%となり、「ない」が上回っている。なお、前回調査では「ある」は45.9%で、あまり大きな差はみられない。

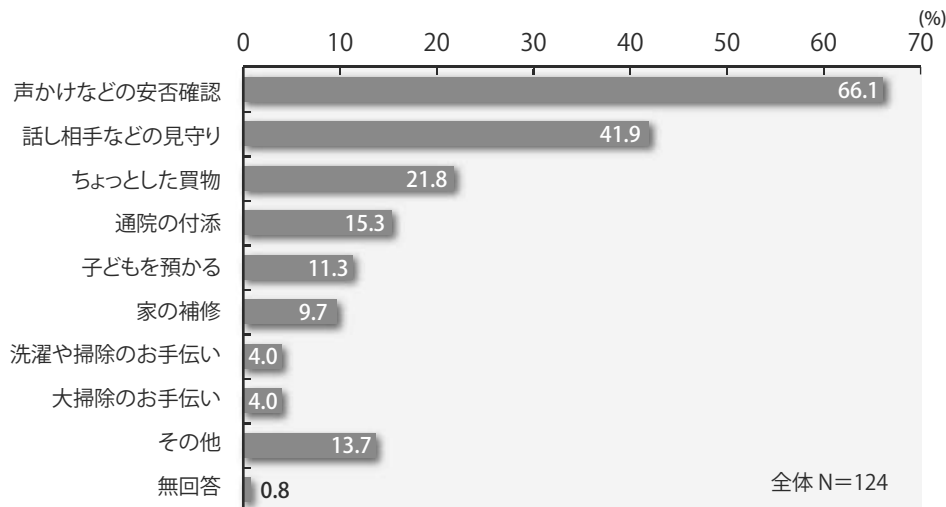
性別には「男性」に比べ「女性」で経験者がやや多く、年齢別には、年齢層が上がるにつれ経験者が顕著に高まる。



問7-1 前問で「2. ある」と答えた方にお聞きします。どのような助け合い活動を行いましたか？

（○はいくつでも）

経験のある助け合い活動については「声かけなどの安否確認」が66.1%に達し最も多く、次いで「話し相手などの見守り」41.9%が続く。

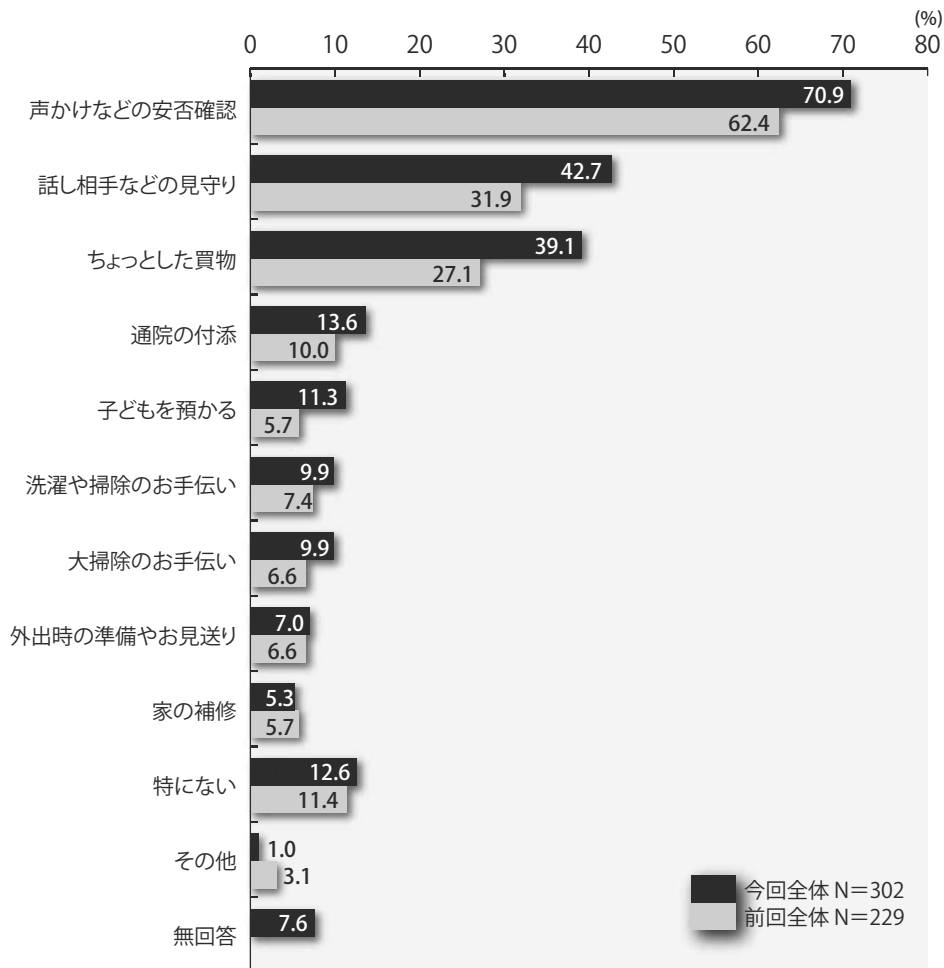




問8 全員の方にお聞きします。今後、あなたが隣近所や地域の中で、助け合い活動に参加・協力できると思うことはなんですか？（○はいくつでも）

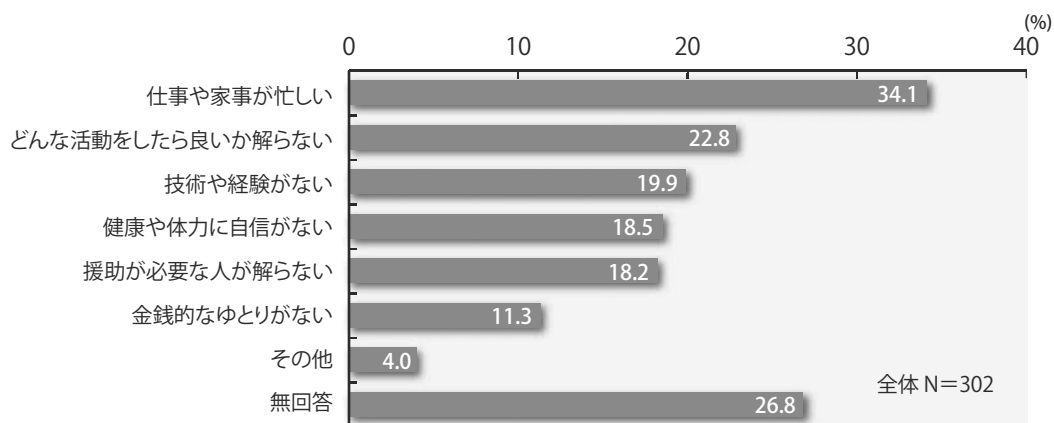
今後の助け合い活動の意向については、「声かけなどの安否確認」が70.9%に達し、次いで「話し相手などの見守り」42.7%、「ちょっとした買物」39.1%が続き、見守りとちょっとしたお手伝いが上位となっている。

また、前回調査に比べ、概ねいずれの項目も回答割合がやや上昇している。



## 問9 問8の質問で、したいけど、できない理由があれば教えてください（○はいくつでも）

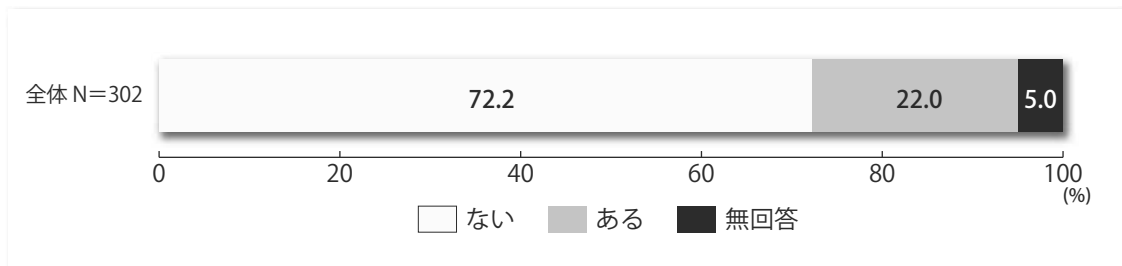
隣近所や地域の中で、助け合い活動に参加・協力したいけど、できない理由については、「仕事や家事が忙しい」34.1%が最も多く、次いで「どんな活動をしたら良いか解らない」22.8%、「技術や経験がない」19.9%、「健康や体力に自信がない」18.5%が続く。



◆社会福祉活動・ボランティア活動等についてお伺いします

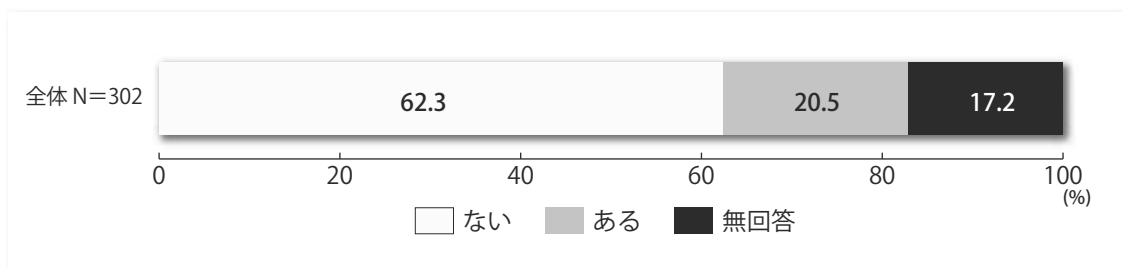
問 10 今まで参加したことのある社会福祉活動やボランティア活動はありますか？（○は一つだけ）

社会福祉活動やボランティア活動の経験としては、「ない」が72.2%を占め、「ある」22.8%を大きく上回る。前問の隣近所の助け合い活動経験は「ある」が41.1%と高く、いわゆるボランティア活動のハードルが高いことが伺われる。



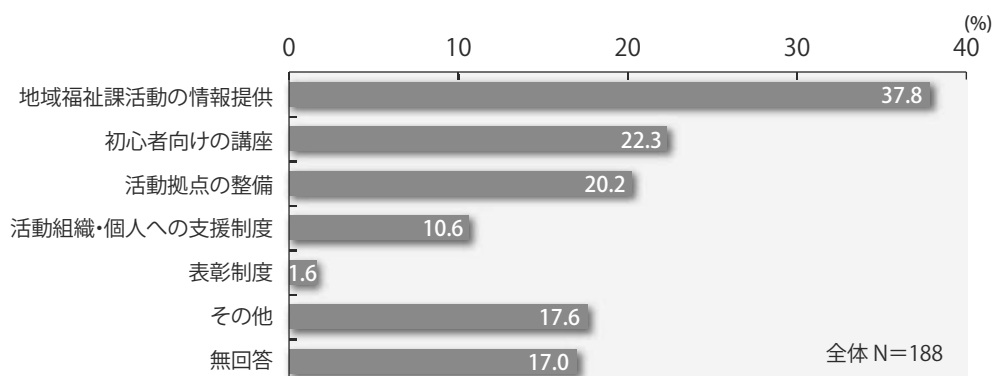
問 11 今後、参加してみたい社会福祉活動やボランティア活動はありますか？（○は一つだけ）

社会福祉活動やボランティア活動の今後の参加意向としては、「ない」が62.3%を占め、「ある」20.5%を大きく上回る。



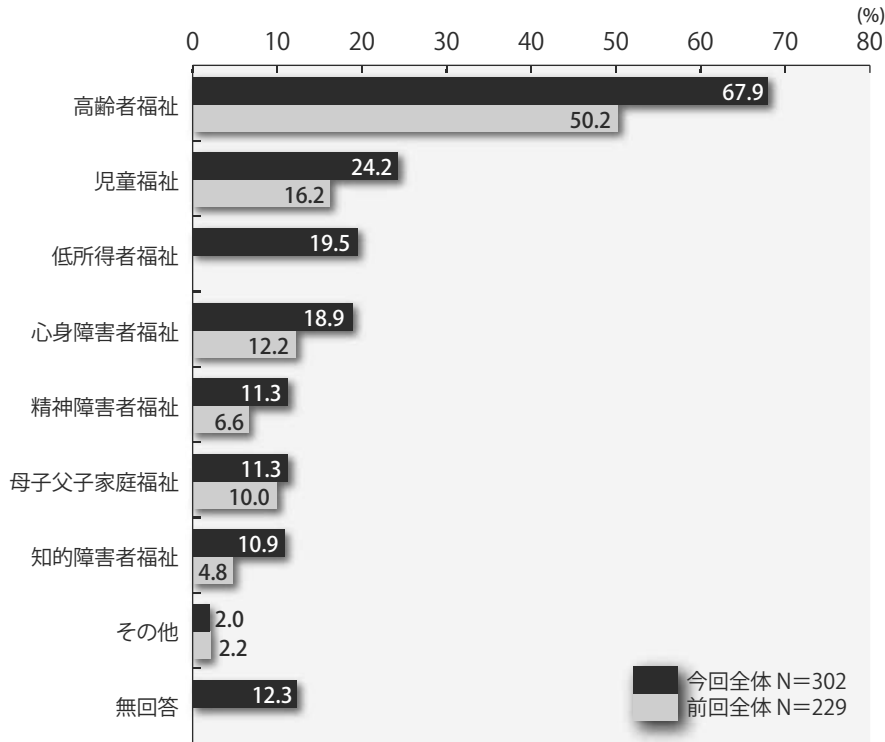
問 12 問 11 で、「ない」と答えた方への質問です。どうしたら参加できるようになりますか？（○はいくつでも）

社会福祉活動やボランティア活動の今後の参加意向が「ない」と答えた方に、参加促進策をお聞きしたところ「地域福祉活動の情報提供」が37.8%と最も多く、次いで「初心者向けの講座」22.3%、「活動拠点の整備」20.2%が続く。



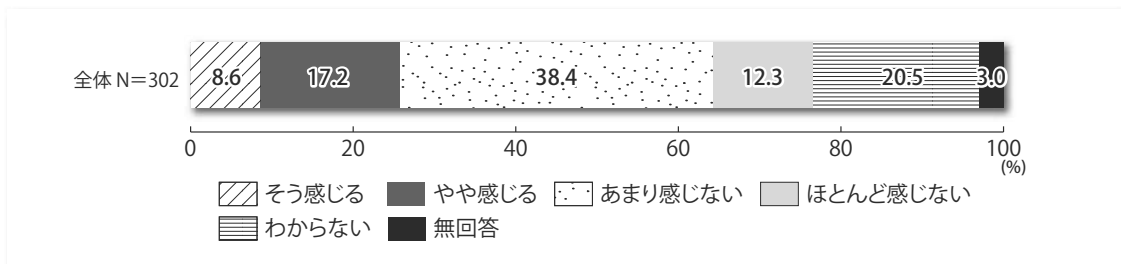
問 13 全員の方にお聞きします。今後、関心のある社会福祉活動はありますか？（○はいくつでも）

関心のある社会福祉活動については「高齢者福祉」が67.9%に達し最も多く、次いで「児童福祉」24.2%、「低所得者福祉」19.5%、「心身障害者福祉」18.9%が続く。前回に比べいずれの項目も回答割合がやや上がっている。



問 14 困ったときに地域住民同士で助け合えるような相互の関係が、以前よりも進んだと感じますか？（○は一つだけ）

地域住民同士で助け合う活動が進展したかどうかについては、「あまり感じない」38.9%と「ほとんど感じない」12.3%を合わせた「感じない」が51.2%、「そう感じる」8.6%と「やや感じる」17.2%を合わせた「感じる」が25.8%と、「感じない」が大きく上回っている。



## 問 15 地域のことや社会福祉協議会へのご意見ご要望等ご自由にお書きください

交 通	高齢者が多くなる一方であるが、タクシーなどの交通手段もなく生活上の困難が見られる。
	車がない高齢者のための買物バスを出して欲しいと思います。重い荷物を持って坂道を登らなければ家に着けない方々が沢山います。是非、週2回程の買物バスを出して下さい。
	一番は、外出困難ではないか。タクシーも不十分・高額で高齢の方が生活していくのに困難な地域と思う。
	高齢者で車のない方々への買物・外出などの送迎車をだしていただきたい。
	ヨガ教室や健康体操など外出したいが、交通手段がない。小型でよいので奥多摩駅中心に1日何本かの乗合タクシーのような交通手段があれば助かると思う。
	高齢になって自分の力で病院などへ行けなくなった時が心配です。奥多摩の様な地域では町内を循環する定期バス又は車がとてもありがたい事だと思います。
	高齢者や体の不自由な方の医療機関への送迎や日常の買い物などの充実。
情報提供	ボランティア活動や講座について興味があるのですが、いつ、どこで、どのような活動が行われているのか、また、福祉に関する情報等をなかなか日にする機会がないように感じます。地域福祉を“住民ひとりひとりに溶けこんだ福祉”にしていくことを期待したいです。
	社会福祉事業（支援側と支援される側）の内容を広く、広報（紙ベース、音声）してほしい。
	若い人にもわかりやすい活動内容等の情報提供や参加しやすいものを増やしてほしい。知らないものも多いので（やりたい やりたくない以前の問題）。
	書類の手続き等、初歩的な事がわからず困っています。人間一生の手続き方法、年金、死亡、介護、手続きをしてから知った損をした失敗等、福祉関係の方達は特に些細な事でも知っている知恵を年寄りに教えていただきたいと思います。
	社会福祉協議会の事業の内容がよくわかりません。幅広く、取り組んでいただいているようですがメインとなる事業を絞って、充実した内容で周知できるようなものにしていただきたいと思います。広報活動にも、もう少し工夫がほしいです。
活動拠点が不明。どこにあるのか地図や番地、TEL等を大きく表示することが必要だ。	
生活支援サービス	夫が病気でもしたら、畑、家のまわりの草刈り等が出来なくなるので不安です。
	日常の買物、生活用品の調達等、手助けが必要な方が増えていると思います。もっと気軽にサービスが受けられるようになる事を望みます。
	年々高齢になるにつれ、坂がきつくなり、ゴミ出し等もかなり負担という人も少なくありません。そういう方への相談やサービスが充実する事を望みます。
	1人暮らしの方で、家の回りの杉の木も大きくなり雪が降り倒れることが不安だそうです。費用はかかっても切ってほしいがどこにお願いしたら良いのか分からないとおっしゃっていました。その様な窓口があるなら教えてほしいと思います。
除 雪	冬の大雪の時に日の当たらない道の除雪が、高齢者ではとても大変になるので考えてほしい。
	冬の積雪の雪かきが出来ず大変困っています。サポートがいただければありがたいです。
連 携	近隣の方々とのつき合い方が大切になっていくと思うので地域と公でたてよこの連携のとり方を考えていく必要があると思います。社協事業の周知がどの程度かわかりませんがその認知度と比例して色々働きかけも必要だと思います。
	ボランティア団体相互の交流・連絡組織の充実。ひとりの要支援者に対して複数以上の団体等が係りをもつ場合もあり、関連する情報を共有できるような場が必要だと思います。
ボランティア	自分が元気な内に、ボランティアができれば良いと常日頃考えています。
	高齢者が不安もなく楽しく暮らしていけるように、健康に生きるための講演会や、いくつになってもできるボランティアなどを紹介してほしいと思います。
交 流	地域の高齢者と子どもが関わる機会なども持てるといいなとも思いました。（わざわざイベントなどにせず気軽に会話をしたりする程度）。
	色々な集会・講座等を企画し、皆が生きがいを持てる町づくりを期待しています。

健康づくり	筋力体操に時々行きます。町外には有料のクラブもありますが近くにあっても行けたらと思っています。せめて自転車、ウォークマシーンなら今の訓練室でも置けると思いますが。
	元気な高齢者を作ることで町の出費が減る。地域で行っている運動、体操をもっとたくさんの人にも体験できるように会館で開くのはどうでしょう。
見守り活動	地域をみても高齢化が進んでいると思います。生活道路の整備、近所の見守り体制等が大切になってくると思います。
	近所の人たちに挨拶をしていきたい。高齢者の人とも交流をもて、安否確認につながるのではないかと感じています。小さい事ですが少しずつ取り組みたい。
	子供達は青梅市に住んでいるので何かおこった時近所にとおもいますが、近所も皆さん同じ様子です。1ヶ月に一度位でいいので声をかけてもらえるとうれしいです。
	隣近所との係りが希薄化しなかなか立ち入ることが難しくなっていると感じる。困っているのに助けを求められず月日が経っていく。玄関先に色旗のような目印などを立て援助が必要な時に何かお手伝いをする。
	高齢者が多いので毎日でも見回りを行なってもらいたい。(1人暮らし)
	少子高齢化が進んでしまった地域、老老介護倒れや親子介護倒れが心配です。週に一度福祉パトロールの様な形で、相談や要望、安否の確認が出来るシステムが出来ないでしょうか。
	1人暮らしの人はとても寂しいのではないかと思います。少しでも外出できるような企画が必要だと思います。又、同時に集うことも計画していただけたらと思います。
	1人暮らしの方に訪問しています。隣近所が離れている為、人が来てくれず、ヘルパー、配食は来ているが、やはりさみしい様です。1日1回でも誰かが訪問して話しをしてくれたらありがたいとおっしゃっていました。
	透析患者さんが増加しているように思うので、施設の確保ができないなら、緊急時のサポートができるようしっかり対策をすべき。
	認知症の方へのサポートとして具体的にどのように声をかけたらよいか、どのように接したらよいかなど簡単なことから啓発していく必要があると思う。
高齢者	高齢者のみならず、40代、50代の単身者であってもいつ病気や、急な事故で生命の危険に陥ることが考えられます。緊急の際の連絡体制の整備が必要。
	以前の雪害などの際、実際に事態にぶつくと互いに助け合って行動することができる。人が苦しんでいるのを気付けば色々な角度から手助けすることができると思う。
	年寄りに対して冷たいと思います。仲間の中には、いずれ青梅の方へ出て、子供達のそばで暮そうと話す人も何人かいます。若い人達だけでなく年よりも、優しい町になれたらいいですね。
子育て世代	年配の人達はとても暮らしづらいと言っている人が多い。年金が安く介護保険が高すぎるため、日々の生活がやっとならなくてボランティアをしようという意欲はないです。子育て支援は充実して来たので今度はお年寄りにやさしい町づくりをお願いします。
	高齢者、障害者福祉に力を入れる。
	子供達を産み育てる世代の人達への協力・賛助など町と連携して実施されたい。
寄付金	社協の活動は高齢者福祉のイメージが強いです。社協が行っている子育て世代が利用できるサービスがよくわからないので、いつ、どんな時に誰が利用できるのか教えてほしいです。
	一人暮らしの人にもやさしい町づくりを。(外から来た20～30代の人対象)
近所づきあい	年3回の寄付金集めが半強制的。金額が表記されるのは変だと思っています。寄付は気持ちで行うものだと思います。地区毎に金額を競っている様な感があり、いかがなものか。
	募金が強制的で出して当然の様に連絡が来る。本当に弱者の方に行っているのか、何につかわれているのかわからない。
近所づきあい	空家の周りに植物が繁り近所に迷惑をかけています。自治会に言っても家主の住所がわからず困っています。
	近所にも一人暮らしの高齢者の方がいるが、記憶なども衰えていて、ゴミを燃やしたりと火の始末も心配である。近隣の付き合いも穏やかに過ごしたいので、第三者の定期的な見守りや家族などへ現状の問題点を連絡して頂くなどしてもらえると助かる。

### 3. 関係団体ヒアリング調査結果概要

#### 調査の概要

◎調査時期	平成 27 年 12 月 3 日～4 日
◎調査方法	グループ面接による意見交換
◎対象者	○老人クラブ ○保健推進員 ○子育てグループ ○自治会長 ○民生・児童委員 ○ボランティア団体 ○障害者団体等 ○介護経験者 ○関連機関（町福祉保健課・ケアサポート奥多摩他）

#### 老人クラブ

##### 【団体の概要】

- 老人会は 16 団体で、全ての地区に組織されているわけではない。
- うち女性部が設置されているのは 12 団体。

##### 【日原自治会】

- 会員は約 80 名で 60 歳以上の方。草取りなどのボランティア作業に参加する方は 40 名程度。
- 活動はグランドゴルフ、ゲートボール、いも煮会（年 2 回）、旅行など。
- 60 歳以上の方で「やまゆり会」を組織し、ボランティア活動を実施。（参加者 8 名程度）

##### 【丹三郎自治会】

- 会員は 45 名で総会には 30 名程度参加。定例会（年 3 回）、ビンゴゲーム、ゲートボール（3 回／週）、おしゃべり会（2 回／週）など。
- おしゃべり会は生活館において料理等をつくりながら開催。ほかに地域の居酒屋でカラオケ等。（10 数名参加）

##### 【大丹波自治会】

- 会員は 40 名程度で定例会は 15 人程度参加。会費は 1200 円／年で 85 歳以上は無料。
- 高齢化が進み若い人で 70 歳。ゲートボール、輪投げ（4 回／月）、グランドゴルフ（6 回／年）、ゲートボール。宿泊旅行は参加者少なく、小菅の湯等への日帰り旅行としている。
- 遊び・レジャーが多様化しており、参加者が少ない。

##### 【境自治会】

- 会員は 27 名。60 歳程度の若い方も参加している。
- グランドゴルフ（6 回／月）、輪投げ、カラオケ（2 回／月）など。神社の掃除、道の掃除などの際には、ほとんどの方が参加。
- 遠い方は 20 分近く歩きやってくる。
- 保健推進員、体操の「みどり会」等の協力により体操・血圧測定・食事会・TV 電話での健康相談等を実施。

##### 【活動参加への課題】

- 車での送迎があれば活動参加者が増える。
- 活動の参加費の負担があり国民年金のみの方は参加が難しい方もいる。
- 地域ささえあいボランティアがあるが、申込制なので急な時には移手段がない。
- 老人会全体ではゲートボールチームが 12 あり、80 人程度が参加する。（6 回／年）

##### 【老人会運営の課題】

- 自治会からの補助金が少ない。

- 近年は自治会、老人会の役員が兼任となってしまう活動が難しくなりつつある。
- 自治会等は役員になるのがいやな方もおり、無理に誘ってもだめ。

#### 【見守り】

- 1人暮らしの方が心配であり、新聞受け等に注意を払い連絡するようにしているが、近所が遠くなり回ることが難しくなりつつある。自分の周り→お隣に注意を払う→地区を守るという連関が必要。

#### 【健康等の相談】

- 日原や中山では、生活館のTV電話で医師と話すことができる。(町の事業)
- 保健師は年1回は各自治会にくる。民生委員は2回/年程度。
- 青梅総合病院までは救急車で30分程度。日原等では緊急時にはヘリを利用するがヘリポートはなく釣り上げることとなる。

### 保健推進員

#### 【団体の概要】

- 総数は60名。21自治会に1~5名程度。
- 各地区により活動は異なる。

#### 【留浦自治会】

- 世帯が少なく弱小であり小河内地区3自治会での活動となる。迎えに行く必要などもあり大変。体操などは困難なのでお茶会を行っている。

#### 【境自治会】

- 体操(2回/月)や管理栄養士と相談して調理などの活動(1回/月)を行っている。マンネリ化もあり、いろいろ取り入れるように努めている。天ぷらなどは1人で作ると多くなってしまいうので自宅では作らないが、皆でつくと良い。

#### 【川井自治会】

- 先生を呼びヘルシー体操や味噌づくり体験などの活動を行っている。

#### 【棚沢自治会】

- 昼ごはんをみんなで作って食べる(1回/3か月)や消防署と協力しAEDの使い方の勉強会、風呂敷の包み方の学習などを行っている。作るのは大変だが食べることへの参加者は多い。

#### 【活動の課題】

- 生活館等での活動の際には送迎の必要があり、推進員が車をだす。活動に対するボランティア保険には加入しているが、送迎の際のボランティア保険は必要ないか。
- 各地区等の団体活動を運営していくための研修が必要。以前は初任者研修があった。
- 長く推進員をやる方もいるが2年1期でやめる方もいる。

#### 【町全体の福祉について】

- 子どもへの福祉は手厚いが高齢者はどうか。
- 社会福祉協議会と町役場がわかっていない方がいる。
- 町には様々な制度・サービスがあるが、その内容・手続きを知らない方が多い。
- 福祉の冊子(チラシを含む)等を配ってもお年寄りは見ない。放送するなどの手もあるのでは。
- 保健推進員でも、福祉バス、病院バス等の細かな手続きはわからない。
- 保健推進員は、本来は若い方・子どもも対象のはずであるが高齢者向けの活動が多い。(周辺に子どもがいない)
- 駅に階段がありバスしか利用できない方がおり、バリアフリーが必要。
- 健診は、悪いところが見つかるといやなのでいかないという方もいる。



- 峰谷は、健診の際にみんなを連れて行くようにしている。

### 【見守り・交流活動】

- 雨戸が閉まったままなどの状況を注意し近所の皆が見守る。町外の娘さんへ連絡するなどをしているが、さらに進める必要がある。
- 峰谷などは1戸1戸が遠く、見守り等が難しく、奥多摩町といっても地域毎に条件が違う。
- 生活館で熱中症対策をやっているが、何もしないのは退屈。おにぎりなどを持っていくと良い。
- トン汁など野外料理が良いのでは。
- いずれの活動も生活館に来るまでが大変。

## 子育て関係

### 【ちびっこぐーちょきぱーの概要】

- 自主保育グループ。以前は氷川と古里にあったが人数が減り合併。現在はほとんどの子が保育園に行くため、子どもの数8名程度。きこりんで2回/週活動。

### 【子育て環境】

- 奥多摩町は保育園無料化など子育て支援が充実している。(よそから来るとよく分かる)
- 習い事の送迎でファミリーサポートを利用している。また、協力会員として赤ちゃんを預かったことがある。しかし急なときは難しい。
- 転入した時は、様々なサポートが分からない。利用できるようにリスト等があれば良い。
- ファミサポの交流会等で顔つなぎをする。預ける方の一覧など事前にわかれば利用しやすい。
- 地域ささえあいボランティアも子どもが利用できるとは知らなかった。
- 中学生程度となるとサッカーや習い事の希望がでるが、町の中に選択肢はなく、町外への送迎が必要となる。
- 小学生までは町で良いが、中学・高校と成長する際、選択肢を広げるために移転する例がある。
- 高校生ともなると運動部に所属するなど、通学ができず、町外の親戚等に預ける例がある。
- 奥多摩病院は小児科がなく、子どもの薬を扱っていないなどで、青梅総合病院へ行くこととなる。

## 自治会

- 小丹波自治会は、農協、小学校、保育園、診療所もあり、駅も近く比較的便利である。おしゃべり会は民生委員が協力し開催している。
- 大氷川自治会は高齢者ばかり。夏場に熱中症対策でコミセンを解放しても、帰りが大変で来る人は少ない。また標高も高く冬場の雪は大変。
- 丹三郎自治会では老人クラブが活発に活動している。自治会では高齢者感謝の会を実施し、保健推進員がおしゃべり会、いも煮会等を行っている。
- 高齢者も、お金になるようなことができる寄り合いの場(作業をするサロン等)が必要。わらじ作りやお祭りの時の花づくりなどを行う。
- 若いうちにポイント制のボランティアに参加し、年をとったらつかえるような仕組みが必要。
- 畑作業は、作る、食べる、配るなどの楽しみがあるうえ、健康づくりにもなる。遊休農地等を分割し賃貸化するなどの仕組みづくりも良いのでは。
- 配食サービスは、一人暮らし以外の人も利用でき、自宅で食べることができるので良い。
- 健康寿命の延伸のため、介護予防の体操等をもっとやる。

## 民生・児童委員

- コミュニティバスがないなど交通の便の問題は大きい。
- ささえあいボランティアができたが、誰が来るのかが分からない。
- 移動スーパーも少なくなり日常の買い物が大変。
- 日原などは限界集落であり、年寄りが年寄りをみる状況にある。
- 豪雪時に孤立する集落がでたが、食料は比較的蓄えがある。しかし石油等は困る。
- 豪雪時に安否確認に3日かかった例もある。山間集落では長く出かける時などは、自治会長等に連絡しておく。
- ますます高齢化が進み、若い人も少なくなるので今後が大変。
- 介護保険料も高くなるが、質を落とさないように。
- 施設等は介護報酬も減額となり赤字化で、かつ働く人がいない。
- 介護サービスは商売にならないので民間の参入はなく、社協だけが頼りである。
- 小河内では山のふるさと村で健康体操を実施（2回／月）している。保健推進員が連れて行ってくれ、評判が良い。やはり人と接する機会が必要。
- 小丹波ではお茶のみ会（2回／月）を実施。
- お茶のみ会、カラオケ等があっても男性の参加はほとんどない。
- 一人暮らしの方には、近隣市町村に住む子どもが頻繁にきている。
- 高齢者の家族で、子どもが年金を使ってしまうなどのケースがあり、どのような手立てが必要か。

## ボランティア団体

### 【団体概要】

#### 【奥多摩指圧奉仕会】

- 講習を受けたボランティアが、特別養護老人ホーム（4施設）、デイサービスセンター等に出向き指圧奉仕（1回／月程度）を実施。35年間活動をしており現在会員は38名。

#### 【栃久保ママさんクラブ】

- 地域において自治会を通し神社等の清掃活動、行事の手伝い等を実施。福祉バザー、ふれあいスポーツ大会等への参加。会員21名。元々はスポーツサークルであったが、社会福祉協議会のボランティア団体へ登録し自治会や子ども会、老人会と協力し地区内のボランティア活動を行っている。

#### 【食事サービスかたくりの会】

- デイサービスセンター施設を利用し、配食サービス（配達、容器回収、容器洗い）を実施（週3回）。サービス利用者は60名程度、会員数は10名程度。

#### 【奥多摩将棋愛好会】

- 施設へ出向き入所者との将棋、小学校でのチャレンジ奥多摩のひとつとして将棋を教えるなどを実施。会員は20名程度。月1回の定例会。

#### 【ボランティア活動の促進等】

- 定年退職後の機会をねらい、ボランティア講座・ボランティア団体の紹介等を行ってはどうか。
- ボランティアの募集として、各ボランティア団体の見学・体験ツアーを実施してみてもどうか。（実際の活動を見るとわかりやすい）
- ボランティアポイント制の話はあったが実現はしていない。
- ボランティア活動は、好きでやっているスタンスでほとほと活動としている。活動促進を考

えれば1コイン程度の報酬があっても良いのかも知れない。

- 将棋は、男性の方の参加も多く、認知症予防等にもつながる。
- ボランティア活動において施設等が食事を出してくれたり、送迎をしてくれたり協力を得ている。
- ボランティア団体内で、いろいろな仲間づきあいがあり有意義である。

## 障害者団体等

### 【団体概要】

#### 【身体障害者福祉協会】

- 会員は50名程度で、活動に参加される方は40名程度。活動内容は旅行、ふれあいスポーツ大会、日帰り見学会、定例会などを実施。

#### 【なごみ運営委員会】

- 精神障害の方のサポート活動として、精神障害者のつどいをきっかけに平成14年度に組織化。(医師、保健師、ボランティア7名で構成)。食事をつくる、ゲーム、パズル、農作業など月1回の活動を実施。対象の方は8名。何かあった時の連絡網を設置するなど見守りを行っている。

#### 【障害者地域活動支援センター かもんみ〜】

- 障害者地域活動支援センターとして、生産、創作活動、交流活動等の機会の提供等を行っている。カフェタンポポハウス（福祉会館、きこりん）、菓子工房、公共施設の清掃の受託、季節の諸行事などをはじめ、本年10月から特定相談支援事業（相談・サービス利用計画作成等）を開始。登録者は25名程度。

### 【活動の促進等】

- 前回のやまびこ計画（10年前）から考えると、様々な事業が取り組まれてきている。
- 様々な事業が展開されているため、特に障害者団体等のネットワークが必要となっている。自立支援協議会は行政主導であり年1回程度などで、常に連携できるような取り組みが重要。
- 例えば、なごみの利用者をタンポポハウスで受け入れるなど、様々な連携が可能になると良い。
- ボランティアに参加する方を増やしていきたい。多摩学園との連携やふれあいスポーツ大会での勧誘なども考えられる。
- 通所している地域の方のグループホームをつくっていきたい。
- 大雪の時には、透析患者の方の把握ができなかったが、現在は民生・児童委員が把握している。

## 介護経験者の方（在宅）

### 【介護の状況】

- デイサービス、配食サービス等を利用しているが、ショートステイは本人が嫌がる。2地域居住での介護生活となっている。
- 認知症対応型グループホームでは、地域のボランティアの協力でお茶会などを行う「ハッピーメイクカフェ」を開催している。
- 歩行が困難になりつつあり、夜も何回も起こされる。

### 【今後の期待等】

- 地域包括支援センターの方は忙しいため、相談などは気が引ける。特に認知症等の介護をしている家族の精神的フォローが望まれる。
- 洗濯などの家事援助型サービスがあれば良い。
- 24時間型のホームヘルプサービスがあれば利用したい。

- 小河内など遠い場所では、支援が必要な高齢者の独居は困難だと思う。
- 緊急相談通報システムがあり、病気の際に救急なのかどうかの相談ができる。またリズムセンサー等の見守りシステムがある。
- 日中独居も多く、また、認知症高齢者の徘徊の心配がある。
- ささえあいボランティアは良い仕組みだが、病院等の待ち時間までお金を頂くと高額になり可哀そう。相対での現金の受け渡しの難しさを感じる。

## 関係職員（町、社協）

### 【町の福祉全般】

- ケアマネの立場からは、子どもにはやさしい町ではあるが、高齢者にはどうかという懸念がある。
- 高齢者へのサービスについて、例えば入所待機率など強みもあり、そうしたことのPRも必要。
- ささえあいボランティアなどの新しい取り組みを周知していく必要性を感じる。
- 何をすることも送迎の不便さが課題となる。

### 【健康づくり・交流等】

- 高血圧の方が多く、医療費の伸びを抑えるため介護予防、特定健診等を実施しているが広報で呼びかけても効果が低い状況にある。
- 山葵塾を開催していたが、卒業生の方の山葵畑の確保が難しい。
- 直売グループ等が活動している。また、アースガーデン等にコーナーがある。
- 健康づくりの観点からウォーキングなどの活動はお勧めである。また、休耕地バンク等の設置により野菜づくりに結び付けるなども考える。

### 【新しい生活支援サービス】

- 新しい総合事業の展開が課題となる。
- 団塊の世代の高齢化が大きな課題であるが、今後、担い手化に取り組み、介護予防につなげると同時に地域力で勝負していく方向を考える。
- 介護保険制度において新しい生活支援サービスを検討することとなるが、社協に地域の力を取り入れるよう期待したい。

### 【介護サービス】

- 介護サービスは民間事業者の参入が期待できず、全般に諸サービスが少ないと感じる。
- 高齢者の在宅の介護サービスは、例えばリハビリがなく、青梅市に通うなどで、選択肢が少ない。
- 奥の方に住んでいる方などを考えると、サービス付き高齢者住宅などもあり得るのではないか。

### 【障害者サービス】

- 総合支援法での知的ホームヘルプはあるが、難病・精神障害者へのホームヘルプサービスがなく、社協にお願いできればと考える。
- 作業所はあるが雇用は少ない。社協で事業所等の雇用先を見つけてもらいたい。
- 自立支援協議会もあるが、普段からのカジュアルな連携が大切だと思う。

### 【社協との連携】

- やまびこ計画において、新しい取り組みを進める際に、町はサポートしていきたい。
- 町の職員と社協の職員との話し合いは、以前に比べ不足していると感じる。
- 社協は利用者と直接に接しており、その状況を町に伝えてもらい、サポートをしていきたい。また、諸制度・サービスのPRをお願いしたい。
- イベント等は、顔見知りの声かけで集まるので、顔見知りの方によるPRが有効。

## 4. その他

### 社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置規程

(目的)

第1条 社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）は、社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会会長（以下「会長」という。）の諮問に応え、奥多摩町地域福祉活動計画を策定することを目的とする。

(委員の構成)

第2条 この委員会は、次に掲げる委員15名以内で構成し、会長がこれを委嘱する。

- (1) ボランティア
- (2) 一般住民
- (3) 民生委員
- (4) 社会福祉関係団体の代表
- (5) 知識学識経験者
- (6) 社会福祉協議会役員
- (7) 関係機関の職員

2 この委員会に委員長1名及び副委員長1名を置き、委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、第1条に定める諮問にかかる事項の答申をした時までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 役職名によって委嘱された委員については、前項の規定にかかわらずその職を辞したとき、委員の職を解くものとする。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し委員長が議長となる。但し、この委員会の第一回日の会議は会長が召集する。

2 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(作業委員会)

第5条 委員長が必要と認めたときは、作業委員会を設置することができる。

(事務局)

第6条 この委員会の事務局は、社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会内に置く。

(その他必要事項)

第7条 この規程に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は、委員会において定める。

附 則（平成27年5月29日 議案第4号）  
この規程は、平成27年5月29日から施行する。

## 諮 問 書

奥社協第25号  
平成27年7月17日

社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会  
地域福祉活動計画策定委員会委員長 殿

社会福祉法人奥多摩町社会福祉協議会  
会長 小澤 春義

### 「奥多摩町地域福祉活動計画」策定について（諮問）

当法人では、地域福祉を推進するため、平成17年3月に第2期の地域福祉活動計画「やまびこ計画 やすらぎ・ふれあい・おもいやりのあるまち 奥多摩」を策定し事業を実施してきたところです。

近年、社会情勢が急激に変化し、更なる少子高齢化が進むなか、地域住民からの福祉ニーズはますます多様化・複雑化されと考えられます。

第2期やまびこ計画は、計画期間の10年が経過いたしました。今後は、奥多摩町長期総合計画と足並みをそろえ、協働しながら、法人独自の役割を果たしたいと考えております。

つきましては、今後の事業展開の指標となる第3期奥多摩町地域福祉活動計画の策定を貴委員会に諮問いたします。

# 答 申 書

平成28年3月9日

社会福祉法人  
奥多摩町社会福祉協議会  
会 長 小澤 春義 殿

奥多摩町地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 原島 榮治

## 第3期奥多摩町地域福祉活動計画の策定について（答申）

平成27年7月17日付奥社協第25号により諮問を受けた第3期奥多摩町地域福祉活動計画の策定について、住民の多様な福祉ニーズを収集分析し、奥多摩町の地域福祉について、「住民参加型のまちづくり」「共に生きるまちづくり」「自立型の福祉」「福祉文化の創造」を基本視点に置き、様々な課題や問題等について、精力的に検討を重ね議論をしてまいりました。

また、奥多摩町の策定する「地域保健福祉計画」と連携・協働する計画となるよう検討した結果、下記のとおり結論を得ましたので答申いたします。

なお、この答申にあっては、基本的に考えられるものを示したものでありますので、今後、社会情勢や制度改革など、地域の状況の変化にあわせ、貴法人で補完整備に努め目標を達成されることを要望します。

## 記

### 1. 第3期奥多摩町地域福祉活動計画

やまびこ計画 ～心と心 笑顔と笑顔をつなぐまち 奥多摩～

## 第3期奥多摩町地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

	構成	氏名	備考	
1	ボランティア	澤本 清美	点字サークルてん点代表	
2	ボランティア	渡邊 和雄	奥多摩指圧奉仕会	
3	一般住民	濱野 文夫	自治会連合会連合会長	
4	民生委員	原島けい子	民生・児童委員協議会副会長	
5	民生委員	小峰 和子	民生・児童委員協議会副会長	平成27年9月30日退任
6	社会福祉関係団体の代表	濱野 芳男	老人クラブ連合会副会長	
7	社会福祉関係団体の代表	杉村 誠二	氷川保育園長	
8	社会福祉関係団体の代表	岡部 隆一	琴清苑事務長	
9	社会福祉関係団体の代表	原島 榮治	シルバー人材センター会長	委員長
10	社会福祉関係団体の代表	相田恵美子	NPO法人タンポポの会	
11	知識学識経験者	片倉 和彦	双葉会診療所長	副委員長
12	社会福祉協議会役員	大澤 健男	社会福祉協議会副会長	
13	関係機関の職員	清水 信行	町福祉保健課長	
14	関係機関の職員	大澤 睦子	地域包括支援センター主任	